

4. 投資信託保有状況(現在保有層)

(1) 投資信託の保有種類〔問3①〕

現在保有層が保有している投資信託の種類は、「株式投資信託」が65.4%で最も高く、次いで「外国で作られた投資信託」(35.8%)、「公社債投資信託」(33.9%)の順となっている。「不動産投信(J-REIT)」(12.5%)や「ETF」(8.5%)の保有率は10%前後と低い。

平成21年の調査結果と比べると、「株式投資信託」の保有率は5.9ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別にみると、「公社債投資信託」保有率は男性(31.5%)より女性(36.4%)の方がやや高い。

年代別では、大きな差はみられない。

年収別では、「～1000万円以上」の高年収層は「株式投資信託」保有率が80%を超え、他の層に比べ高い。

なお、投資信託保有種類数(重複回答分)を回答サンプルで除して求めた平均保有数は、1.56種類となっている。

【投資信託の保有種類(重複回答)／時系列—現在保有層ベース】

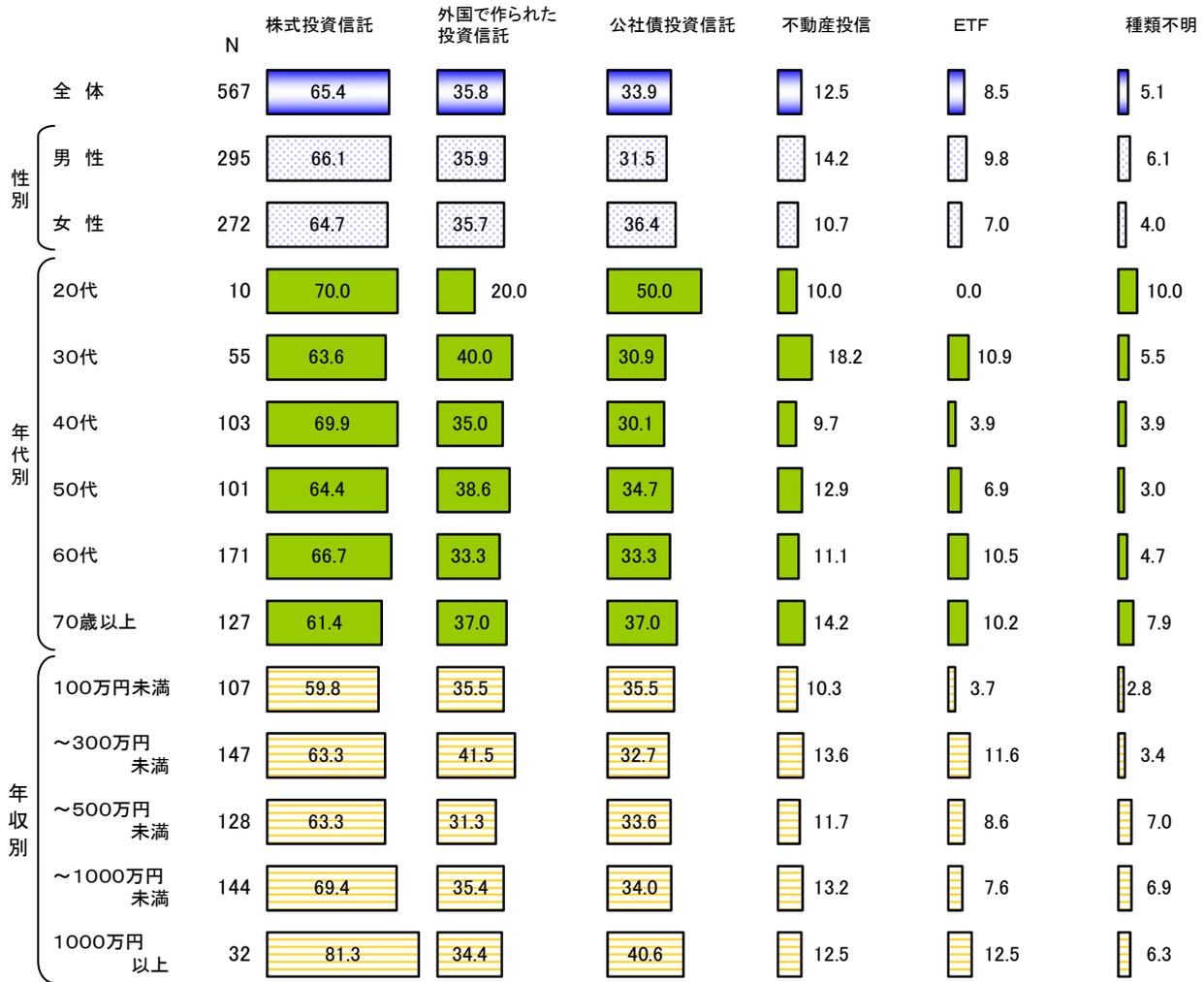


【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

N	MRF中期・国債MF・	外国債券ファンド	国内株式ファンド	国内債券ファンド	国内債券ファンド	外国株式ファンド	不動産投信	ETF	その他記以の	外国MでM作られた	外国M投資信託以外の	種類不明
381	40.2	36.0	35.4	22.3	21.5	19.4	10.8	3.9	3.1	5.0	4.2	5.2

【投資信託の保有種類(重複回答)／基本軸1－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の保有種類(重複回答)・種類別回答者数と平均保有数－現在保有層ベース】

※「種類不明」は除く。

	N	公社債投資信託	株式投資信託	ETF	不動産投信	外国で作られた投資信託	平均保有数(種類)
平成24年	567	192	371	48	71	203	1.56
平成21年	491	155	350	42	62	177	1.60

【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

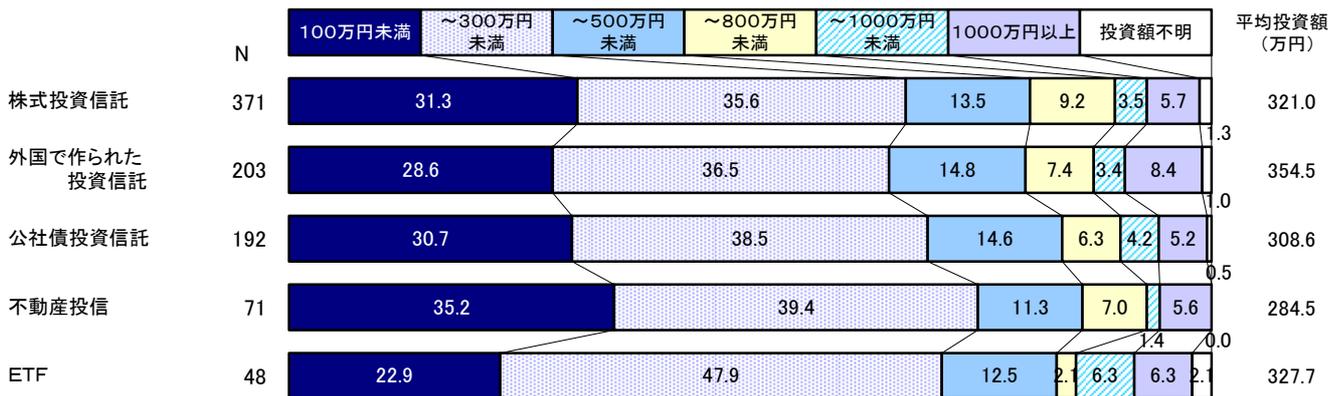
N	MRF・中期・国債MF・	外国債券ファンド	国内株式ファンド	国内債券ファンド	国内債券ファンド	外国株式ファンド	不動産投信	ETF	その他記以外の	外国MでM作られた	外国M投資信託以外の	(平均保有数)
361	153	137	135	85	82	74	41	15	12	19	16	2.13

(2) 投資信託の投資額〔問3②〕

現在保有層における投資信託保有種類別の投資額をみると、平均は「外国で作られた投資信託」が354.5万円でも最も高い。以下、「ETF」が327.7万円、「株式投資信託」が321.0万円、「公社債投資信託」が308.6万円、「不動産投信」が284.5万円の順となっている。

なお、これらの投資信託の購入合計額の平均は447万円である。

【投資信託の投資額(単数回答)－現在保有層ベース】



上記投資信託保有者（投資額不明除く）の平均合計投資額（推計）

447万円

平成21年

【保有種類別投資額／現在保有層ベース】

	N	平均投資額(万円)
株式投資信託	350	339
外国で作られた投資信託	177	343
公社債投資信託	155	310
不動産投信	62	283
ETF	42	271

平均合計投資額(推計)
499万円

平成18年

【保有種類別投資額／現在保有層ベース】

	N	平均投資額(万円)
MRF・MMFまたは中期国債ファンド	153	181
国内債券ファンド	82	273
外国債券ファンド	137	376
国内株式・債券バランスファンド	85	304
国内株式ファンド	135	267
外国株式ファンド	74	289
ETF	15	207
不動産投信	41	309
その他(上記以外)	12	292
外国で作られたMMF	19	139
外国MMF以外の投信	16	334

平均合計投資額(推計)
546万円

【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

(3) 株式投資信託の保有種類（現在保有層のうち株式投資信託保有者）〔問4①〕

株式投資信託保有層が保有している株式投資信託の種類をみると、「国内株式に主に投資する株式投資信託」が49.1%で最も高く、次いで「外国債券に主に投資する株式投資信託」が38.8%で高い。「外国株式に主に投資する株式投資信託」(29.6%)と「様々な資産に投資する株式投資信託」(26.7%)は同程度で並んでいるが、「不動産投信に主に投資する株式投資信託」は11.1%と低い。

平成21年調査結果と比べると、「国内株式に主に投資する投資信託」は保有率が9.5ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「国内株式に主に投資する株式投資信託」と「外国株式に主に投資する株式投資信託」の保有率は高く、一方、女性の方が「外国債券に主に投資する株式投資信託」と「様々な資産に投資する株式投資信託」はやや高い。

年代別では、50代は他の年代に比べ「外国債券に主に投資する株式投資信託」保有率はやや高いが、「様々な資産に投資する株式投資信託」保有率はやや低い。

年収別では、「国内株式に主に投資する株式投資信託」保有率は「100万円未満」の層では低い。「外国株式に主に投資する株式投資信託」は年収が高いほど保有率が高い傾向がみられ、『500万円以上』の層では40%近い。

投資信託保有種類数(重複回答分)を回答サンプルで除して求めた平均保有数は、1.63種類であり、平成21年調査結果の1.76種類に比べるとやや少なくなっている。

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／時系列

－現在保有層・株式投資信託保有者ベース

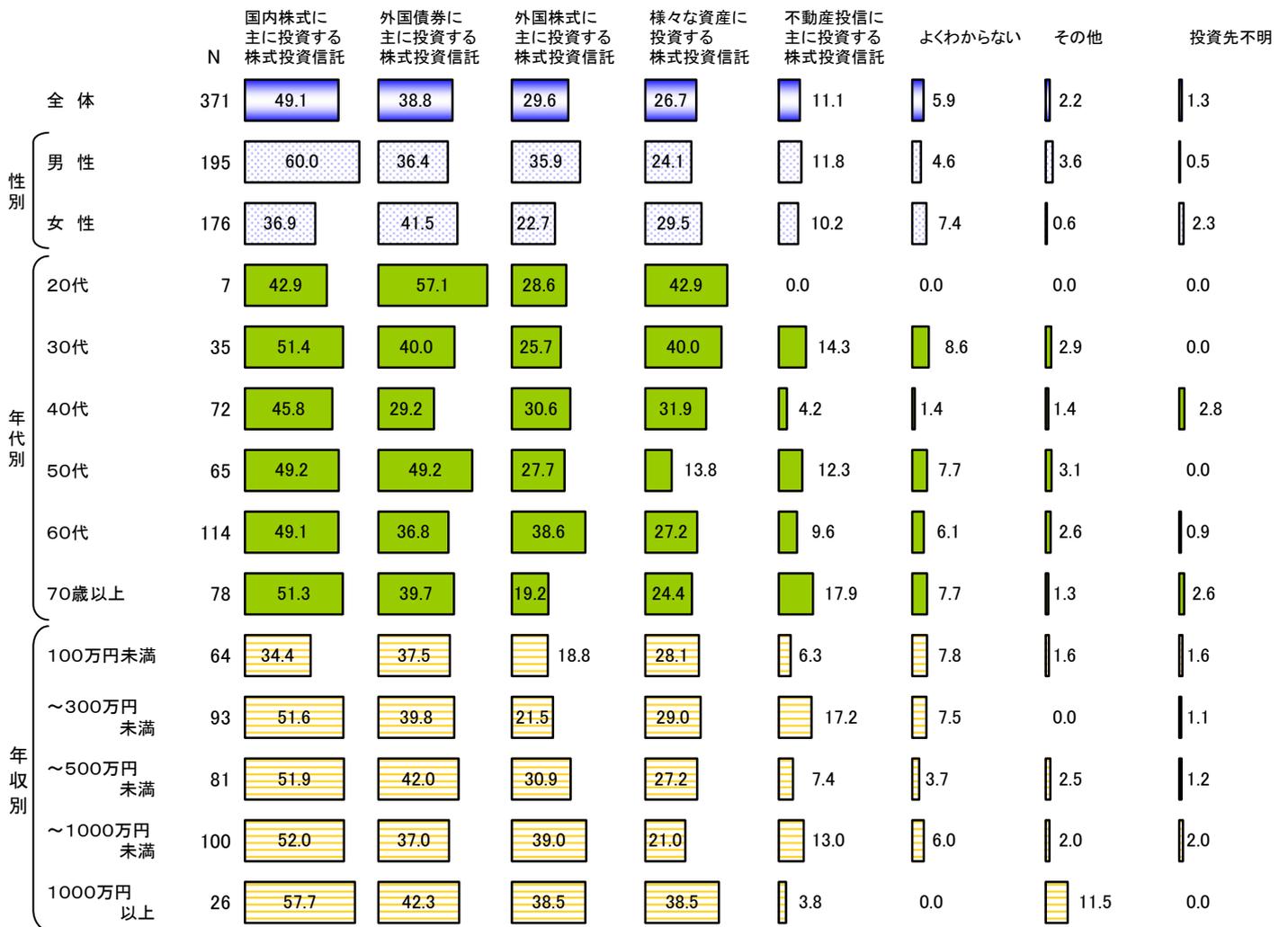
	N	国内株式に 主に投資する 株式投資信託	外国債券に 主に投資する 株式投資信託	外国株式に 主に投資する 株式投資信託	様々な資産に 投資する 株式投資信託	不動産投信に 主に投資する 株式投資信託	よくわからない	その他	投資先不明
平成24年	371	49.1	38.8	29.6	26.7	11.1	5.9	2.2	1.3
平成21年	350	58.6	40.6	31.1	28.9	11.1	-	5.4	0.6

*平成24年調査では「よくわからない」の選択肢が追加されている

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／基本軸1

－現在保有層・株式投資信託保有者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【株式投資信託の保有種類(重複回答)・種類別回答者数と平均保有数

－現在保有層・株式投資信託保有者ベース

※「投資先不明」は除く。

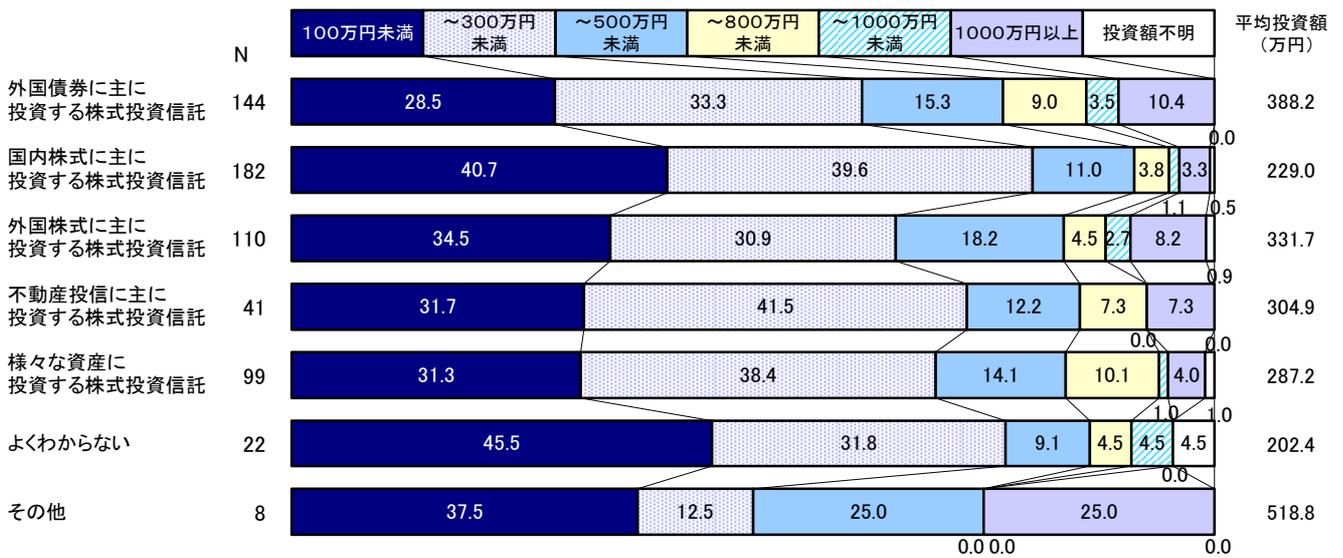
	N	外国債券に主に投資する株式投資信託	国内株式に主に投資する株式投資信託	外国株式に主に投資する株式投資信託	不動産投信に主に投資する株式投資信託	様々な資産に投資する株式投資信託	よくわからない	その他	(N) 平均保有数(種類)
平成24年	371	144	182	110	41	99	22	8	1.63
平成21年	350	142	205	109	39	101	-	19	1.76

(4) 株式投資信託の投資額（現在保有層のうち株式投資信託保有者）〔問4②〕

株式投資信託の種類別に保有層の投資額をみると、「その他」を除いて平均が最も高いのは「外国債券に主に投資する株式投資信託」388.2万円である。以下、「外国株式に主に投資する株式投資信託」331.7万円、「不動産投信に主に投資する株式投資信託」は平均304.9万円、「様々な資産に投資する株式投資信託」287.2万円の順となっている。「国内株式に主に投資する株式投資信託」229.0万円で最も低い。

【株式投資信託の投資額(単数回答)－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(5) 投資信託の積立投資の利用(現在保有層)〔問5〕

投資信託の積立投資を利用している(「はい」の比率)は18.9%であり、利用していない(「いいえ」の比率71.3%)が圧倒的に多い。

対象者属性別では、性別でみると、利用率は男性(24.1%)の方が女性(13.2%)より高い。

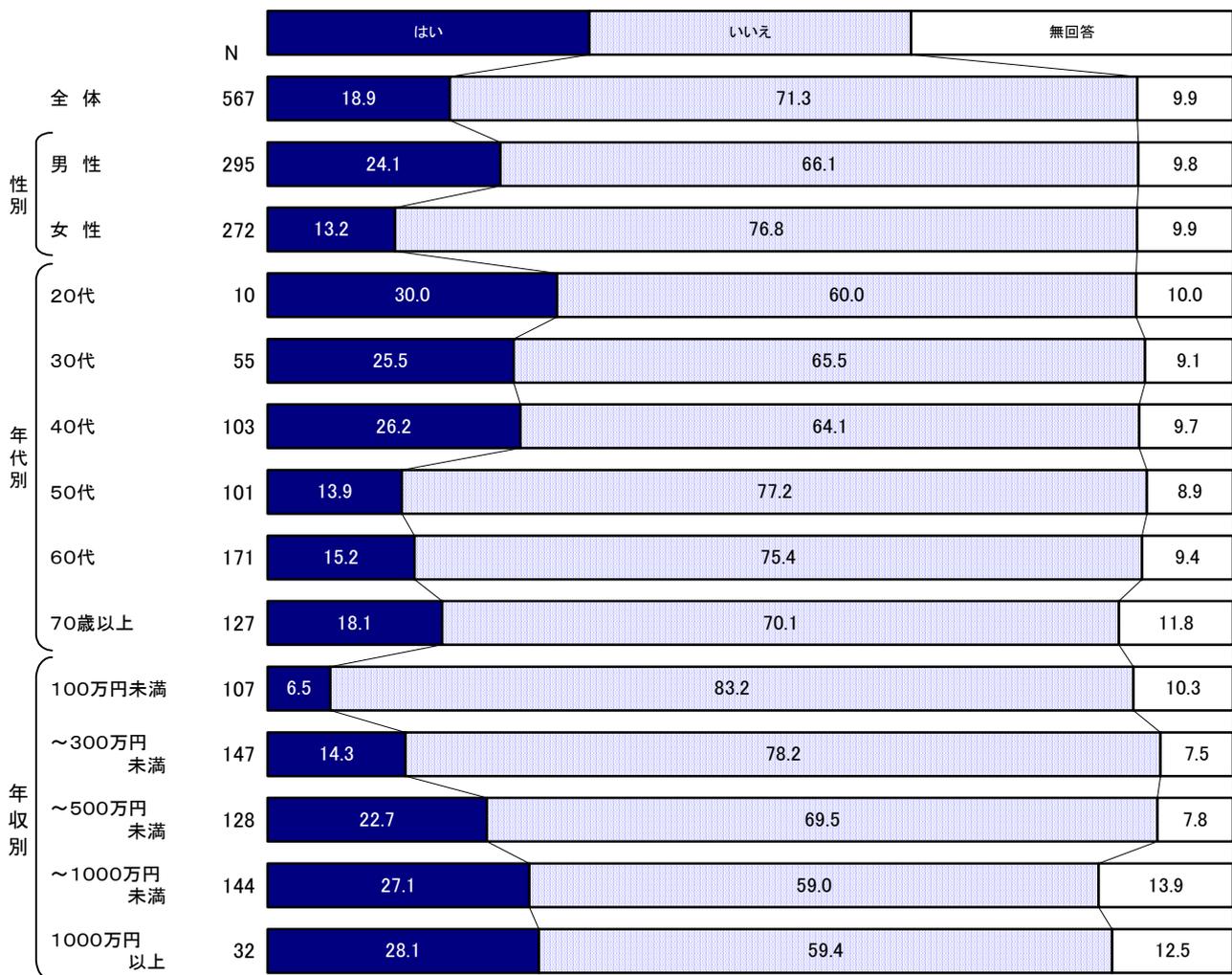
年代別では、利用率は30~40代が約25%に対し、50代以上は15%前後と低くなる。

年収別では、年収が上がるにつれ利用率が高くなる傾向がみられる。

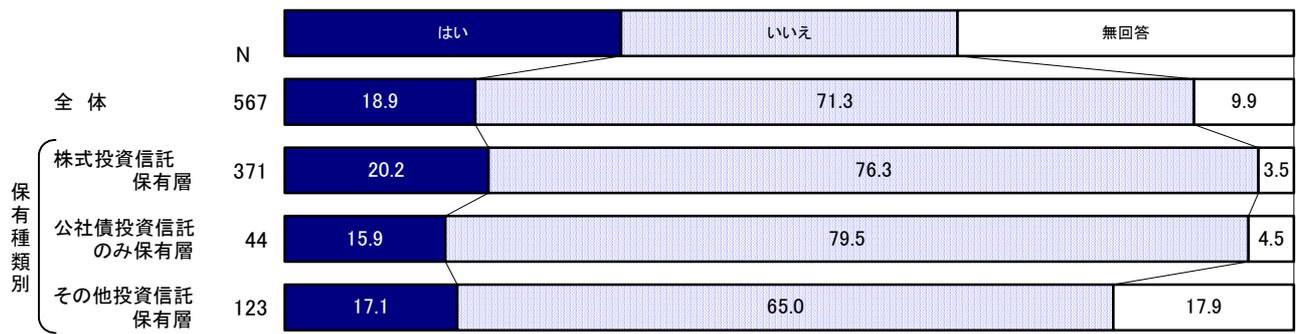
投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

【投資信託の積立投資の利用(単数回答)／基本軸1ー現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の積立投資の利用（単数回答）／基本軸2－現在保有層ベース】



(6) 投資信託の積立投資の形態(現在保有層のうち積立投資利用者)〔問5-1〕

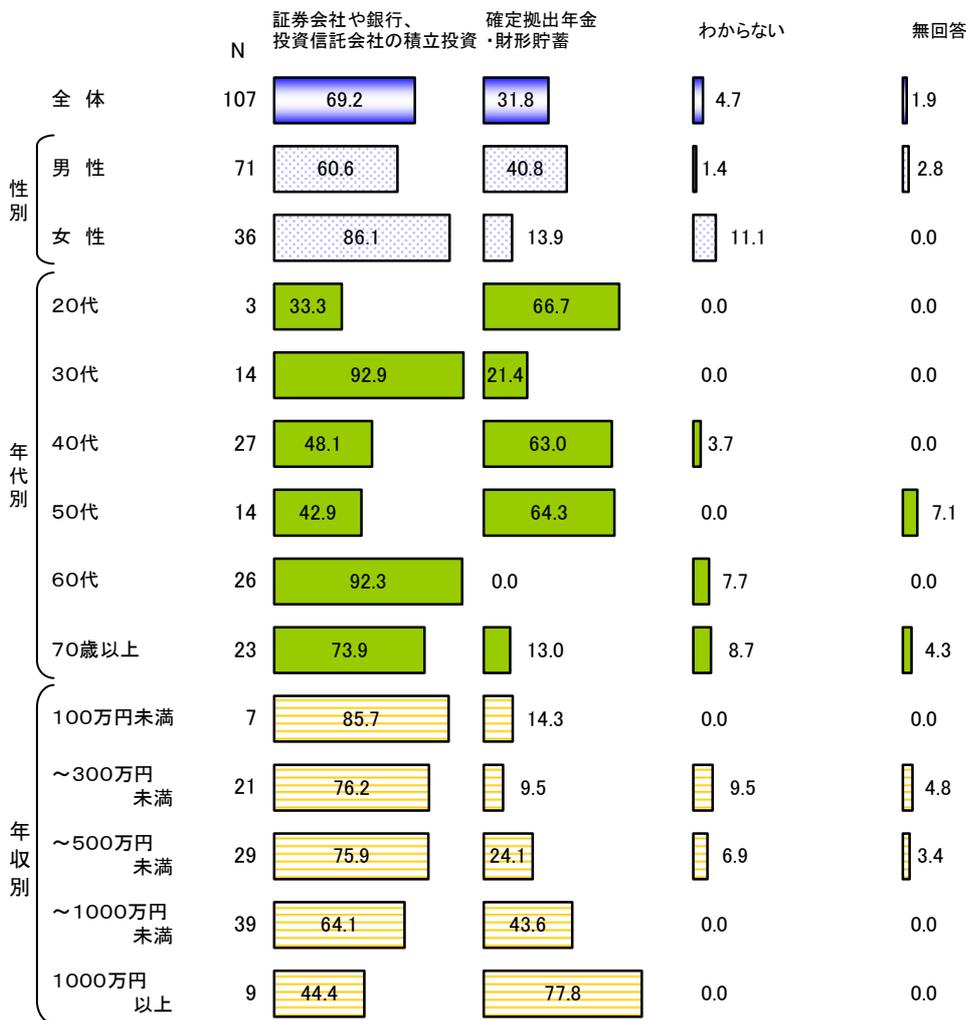
投資信託の積立投資の形態としては、「確定拠出年金・財形貯蓄」が31.8%に対し、それ以外の「証券会社や銀行、投資信託会社の積立投資」が69.2%と高い。

対象者属性別では、性別で見ると、「確定拠出年金・財形貯蓄」の利用率は女性(13.9%)より男性(40.8%)の方が高く、「証券会社や銀行、投資信託会社の積立投資」利用率は男性(60.6%)より女性(86.1%)の方が高い。

【投資信託の積立投資の形態(重複回答)／基本軸1

ー現在保有層のうち積立投資利用者ベース】

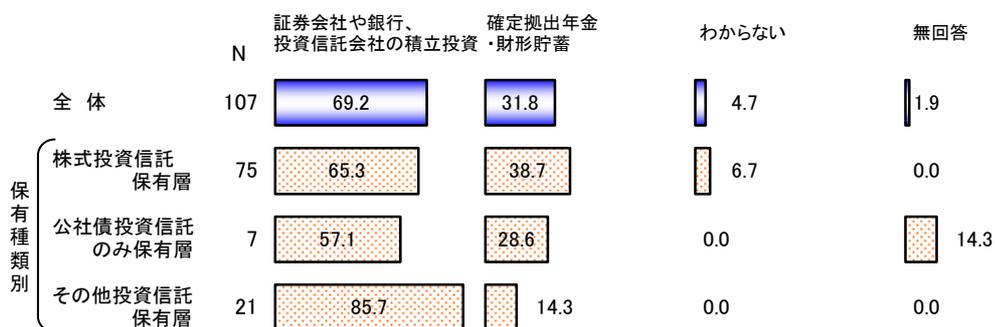
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の積立投資の形態（重複回答）／基本軸2

ー現在保有層のうち積立投資利用者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



5. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

(1) 投資信託購入のきっかけ〔問8〕

投資信託を購入したきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が64.3%で最も高く、他のきっかけを大きく上回っている。以下、「家族や友人から良いという話を聞いて」(18.4%)、「商品広告等を見て良さそうだったので」(13.5%)、「新聞や雑誌記事で良さそうだったので」(12.1%)、「電話案内やDMが送られてきたので」(10.2%)の順に並んでいる。

時系列でも、大きな変化がみられる項目はない。

対象者属性別では、性別で見ると、女性の方が「証券会社や銀行等の人から勧められて」と「家族や友人から良いという話を聞いて」は高いが、男性の方が「商品広告等を見て良さそうだったので」や「新聞や雑誌記事で良さそうだったので」などはやや高く、男性の方が自発的な動機から購入している様子が見える。

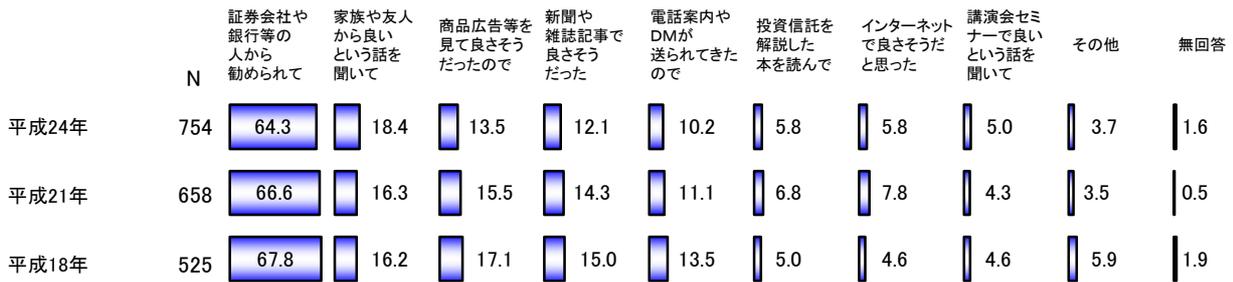
年代別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は年代が上がるにつれ高くなる傾向が見られるが、「家族や友人から良いという話を聞いて」「インターネットで良さそうだった」とは若年層ほどやや高い。

年収別では、「家族や友人から良いという話を聞いて」は「100万円未満」の低年収層で最も高く、「1000万円以上」の高年収層では低い。一方、「商品広告等を見て良さそうだったので」は「1000万円以上」の高年収層で特に高い。

投資信託保有状況別、投資信託保有種類別では、大きな差は見られない。

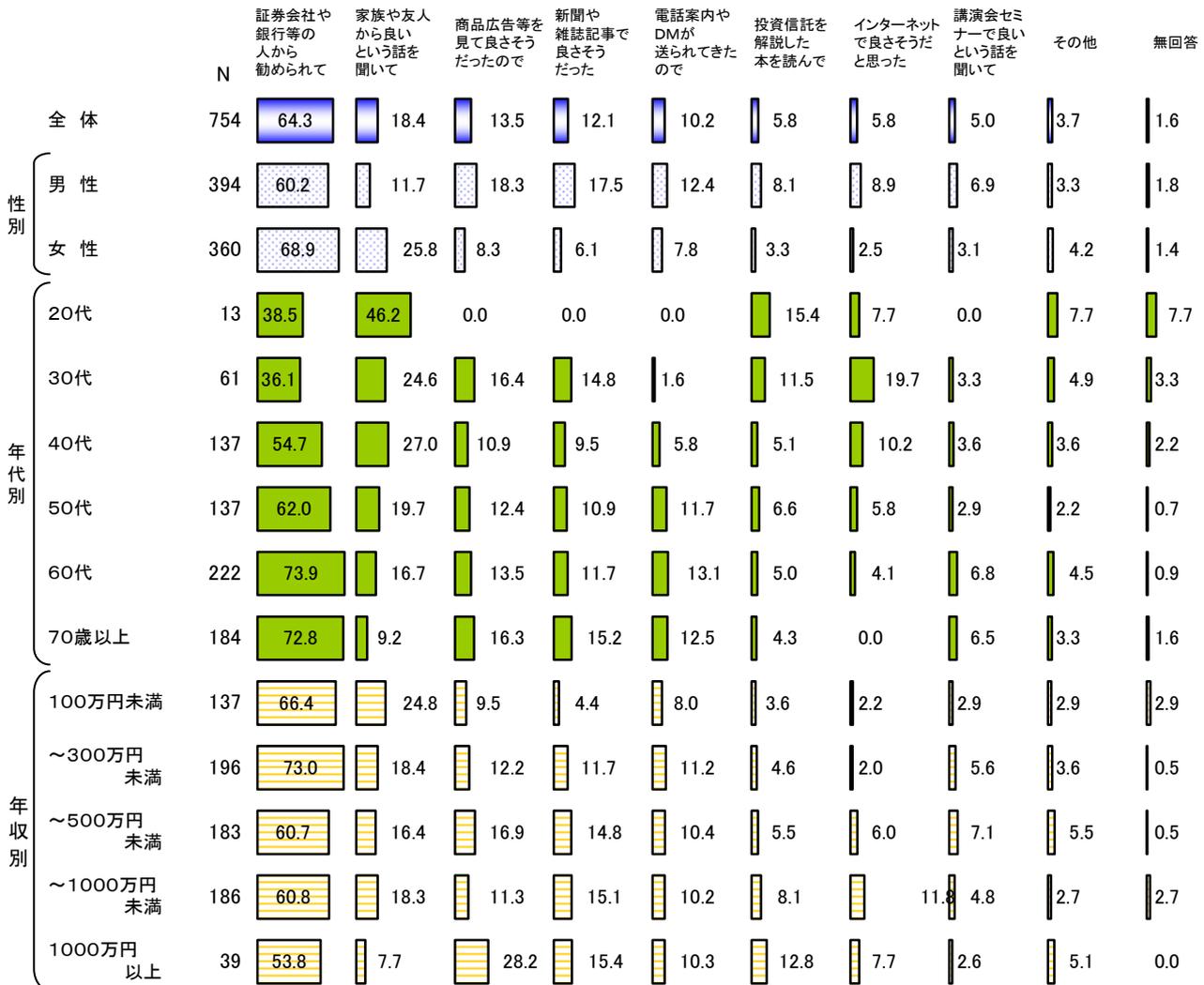
居住地別でも大きな差は見られない。

【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／時系列ー現在保有層・保有経験層ベース】



【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／基本軸1ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	証券会社や銀行等の人から勧められて	家族や友人から良いという話を聞いて	商品広告等を見て良さそうだったので	新聞や雑誌記事で良さそうだった	電話案内やDMが送られてきたので	投資信託を解説した本を読んで	インターネットで良さそうだった	講演会セミナーで良いという話を聞いて	その他	無回答
全体	754	64.3	18.4	13.5	12.1	10.2	5.8	5.8	5.0	3.7	1.6
保有状況別	現在保有層	64.2	18.7	12.7	10.4	11.6	5.6	6.2	4.8	3.7	1.9
	保有経験層	64.7	17.6	16.0	17.1	5.9	6.4	4.8	5.9	3.7	0.5
保有種類別	株式投資信託保有層	65.0	17.0	13.5	11.3	12.4	7.0	7.3	3.8	4.3	1.1
	公社債投資信託のみ保有層	68.2	25.0	11.4	9.1	9.1	2.3	2.3	4.5	0.0	0.0
	その他投資信託保有層	61.8	20.3	10.6	7.3	10.6	1.6	4.1	4.9	4.1	2.4
居住地別	北海道・東北	66.2	13.2	16.2	4.4	8.8	5.9	2.9	2.9	4.4	2.9
	首都圏	61.4	18.6	16.2	13.3	9.5	4.8	4.3	5.7	4.3	1.9
	その他の関東	57.0	25.3	16.5	19.0	10.1	6.3	10.1	7.6	2.5	0.0
	中部	68.8	13.9	10.4	11.8	12.5	6.3	4.9	4.9	4.2	0.7
	近畿	65.0	18.6	10.7	7.1	10.0	7.9	7.9	4.3	3.6	2.1
	中国・四国・九州	67.3	22.1	12.4	15.9	9.7	4.4	6.2	4.4	2.7	1.8

(2) 投資信託の購入金融機関〔問9〕

購入の際の金融機関は、「証券会社の店頭」(43.2%)と「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭(電話注文を含む)」(42.6%)が40%を超えており、この2つが主なルートとなっている。「投資信託会社」は8.2%であり、「証券会社のインターネット取引」(9.4%)や「銀行(ゆうちょ銀行を含む)のインターネット取引」(7.0%)と同程度である。

平成18年および21年調査とは選択肢を変更したため、厳密には比較できないが、「投資信託会社」の利用率に大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別で見ると、女性の方が「銀行の店頭(ゆうちょ銀行を含む)」の利用率は高いが、男性の方が「証券会社の店頭」や「証券会社のインターネット取引」の利用率はやや高い。

年代別では、「証券会社の店頭」の利用率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。30代は他の年代に比べ「証券会社のインターネット取引」(27.9%)や「銀行(ゆうちょ銀行を含む)のインターネット取引」(18.0%)の利用率が高い。「投資信託会社」の利用率は50代以下より60代以上の方がやや高い。「確定拠出年金及び財形貯蓄」の利用率は40代でやや高い。

年収別では、「証券会社のインターネット取引」と「確定拠出年金及び財形貯蓄」の利用率は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

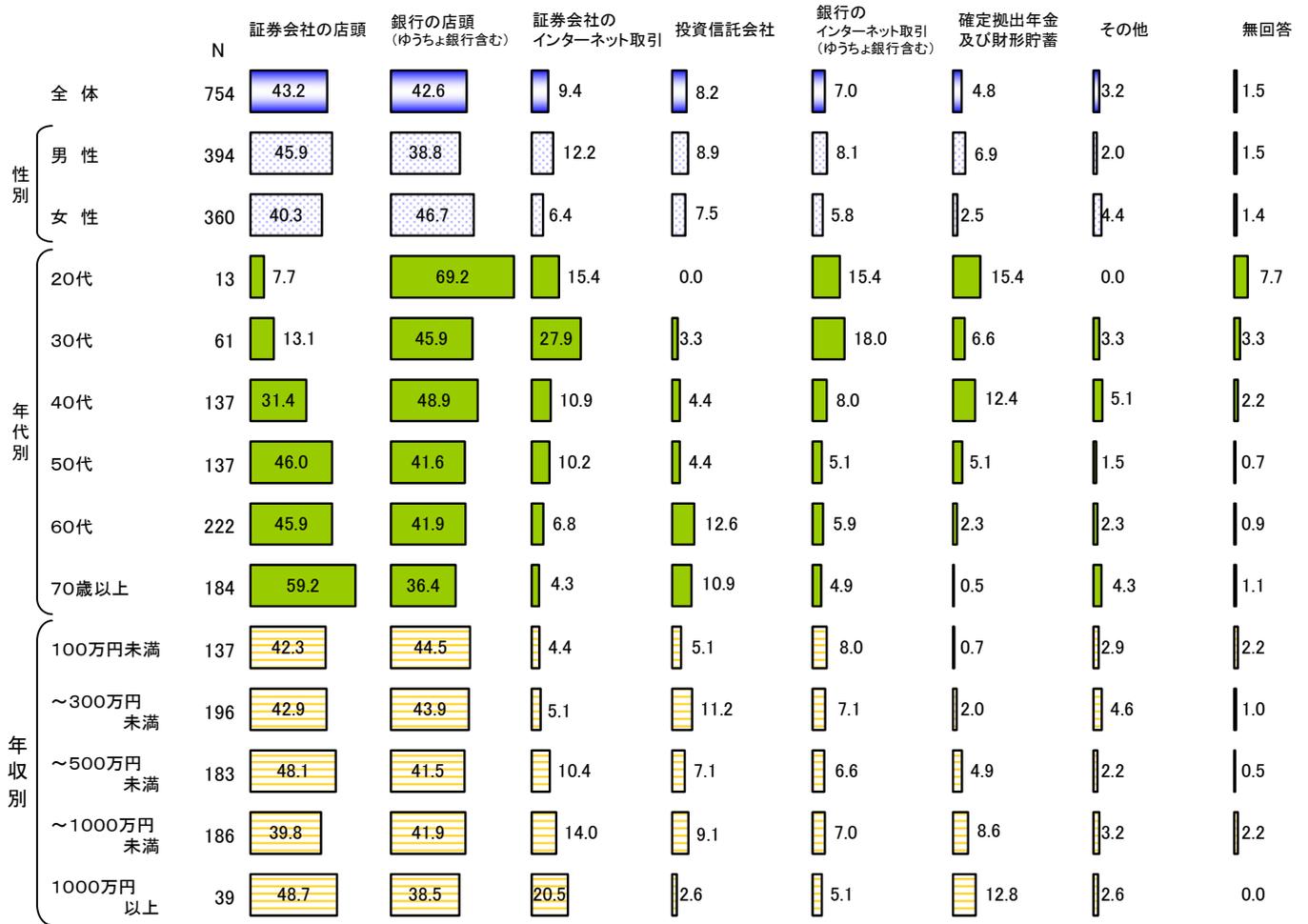
投資信託保有状況別にみると、現在保有層では「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭」(46.2%)の利用率が「証券会社の店頭」(39.9%)をやや上回るが、保有経験層では逆に「証券会社の店頭」(53.5%)の利用率が「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭」(31.6%)を大きく上回っており、違いがみられる。「証券会社のインターネット取引」や「銀行(ゆうちょ銀行を含む)のインターネット取引」の利用率も現在保有層の方が保有経験層よりやや高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「銀行(ゆうちょ銀行を含む)のインターネット取引」や「確定拠出年金及び財形貯蓄」の利用率が高い。公社債投資信託のみ保有層は主な2つのルート以外にはほとんど利用していない。

居住地別では、首都圏と中部は他の地域に比べ「証券会社の店頭」利用率がやや高く、「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭」利用率はやや低い。「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭」利用率は近畿が最も高い。

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

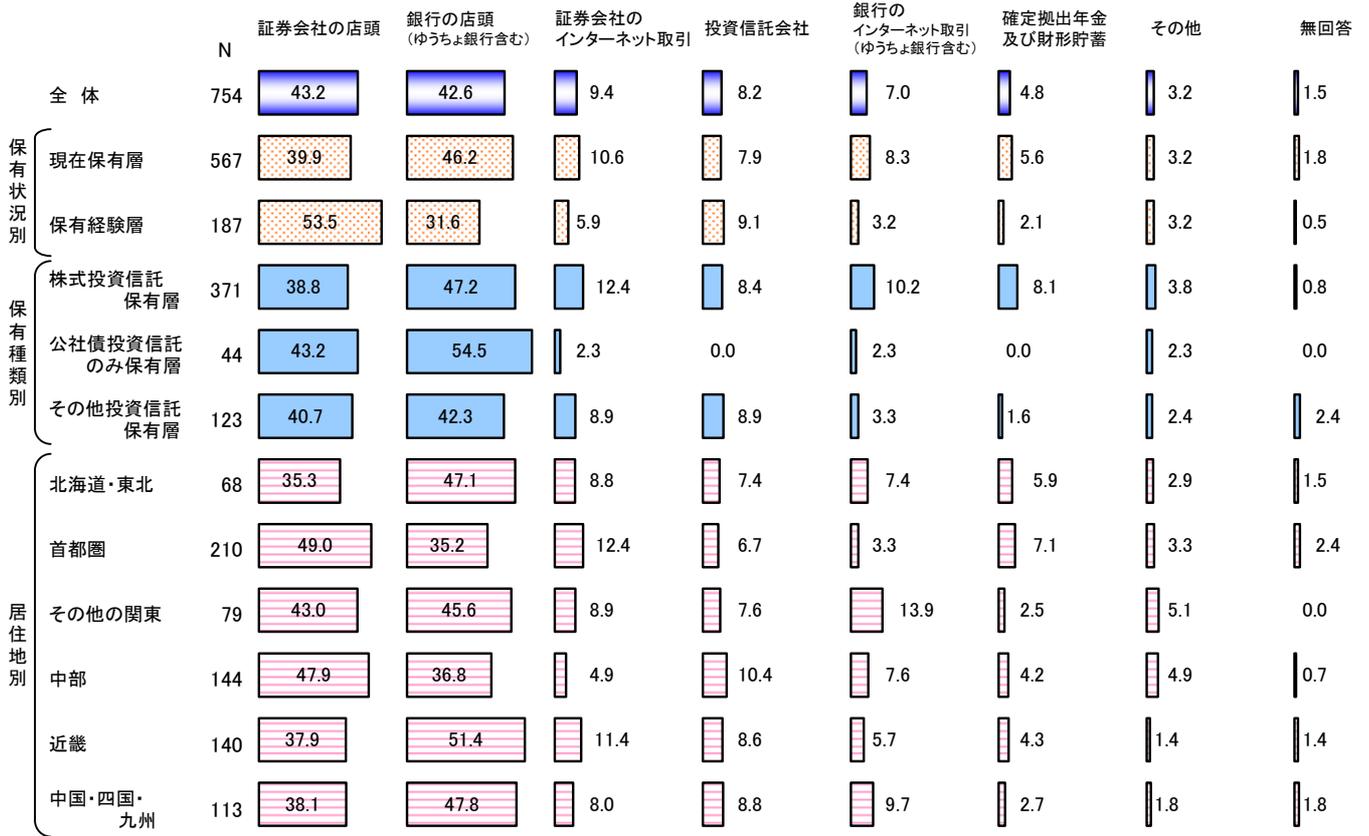
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考：平成21年、18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	証券会社	銀行等の 金融機関	ゆうちょ銀行 (郵便局)	投資信託会社	その他	無回答
平成21年	658	55.0	46.2	7.0	8.8	0.9	0.5
平成18年	525	66.1	40.0	3.2	7.6	0.8	1.9

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】



(3) 販売員の説明・勧誘方法〔問10、問10-1、問10-2〕

① 販売員の説明・勧誘に対する満足状況

投資信託を購入した際の販売員の説明・勧誘の仕方等への満足状況は、「とても満足した」が2.7%、「まあ満足した」が42.6%であり、これらを合わせた“満足層”は45.3%と半数近くを占める。一方、「あまり満足しなかった」(9.2%)と「まったく満足しなかった」(1.7%)を合わせた“不満層”は10.9%にとどまる。なお、「とても満足した」から「まったく満足しなかった」まで、5点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、3.4点となった。

時系列でみると、“満足層”比率に減少傾向がみられる一方、“不満層”比率は微増している。

対象者属性別では、性別、年代別ともに“満足層”比率には大きな差はみられない。ただし、若年層ほど「販売員と接触していない」率が高い傾向がみられる。これは若年層のインターネット取引率の高さが影響していると推測される(49～51 ページ「投資信託の購入金融機関」参照)。

年収別では、“満足層”比率は「～300万円未満」の層で51.1%とやや高い。

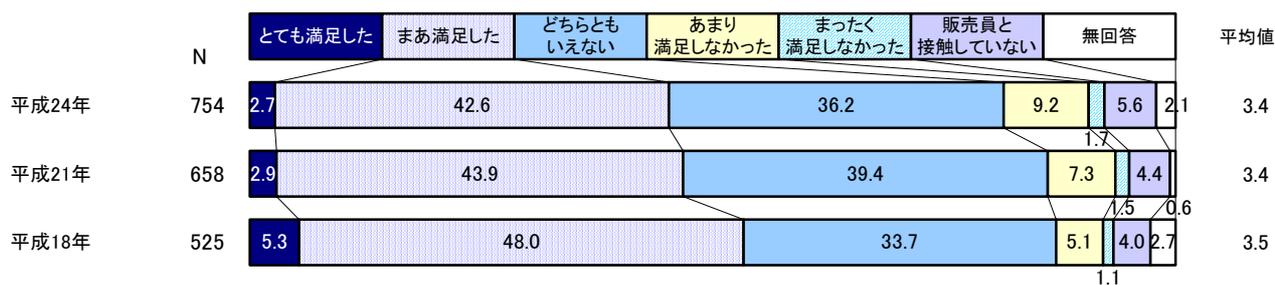
投資信託保有状況別では、“満足層”比率は現在保有層(48.5%)が保有経験層(35.3%)を大きく上回る。

投資信託保有種類別では、“満足層”比率は、その他投資信託保有層では52.0%と他2層に比べやや高い。

居住地別では、“満足層”比率は近畿が54.3%と高いが、首都圏やその他の関東では約41%とやや低い。

【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／時系列

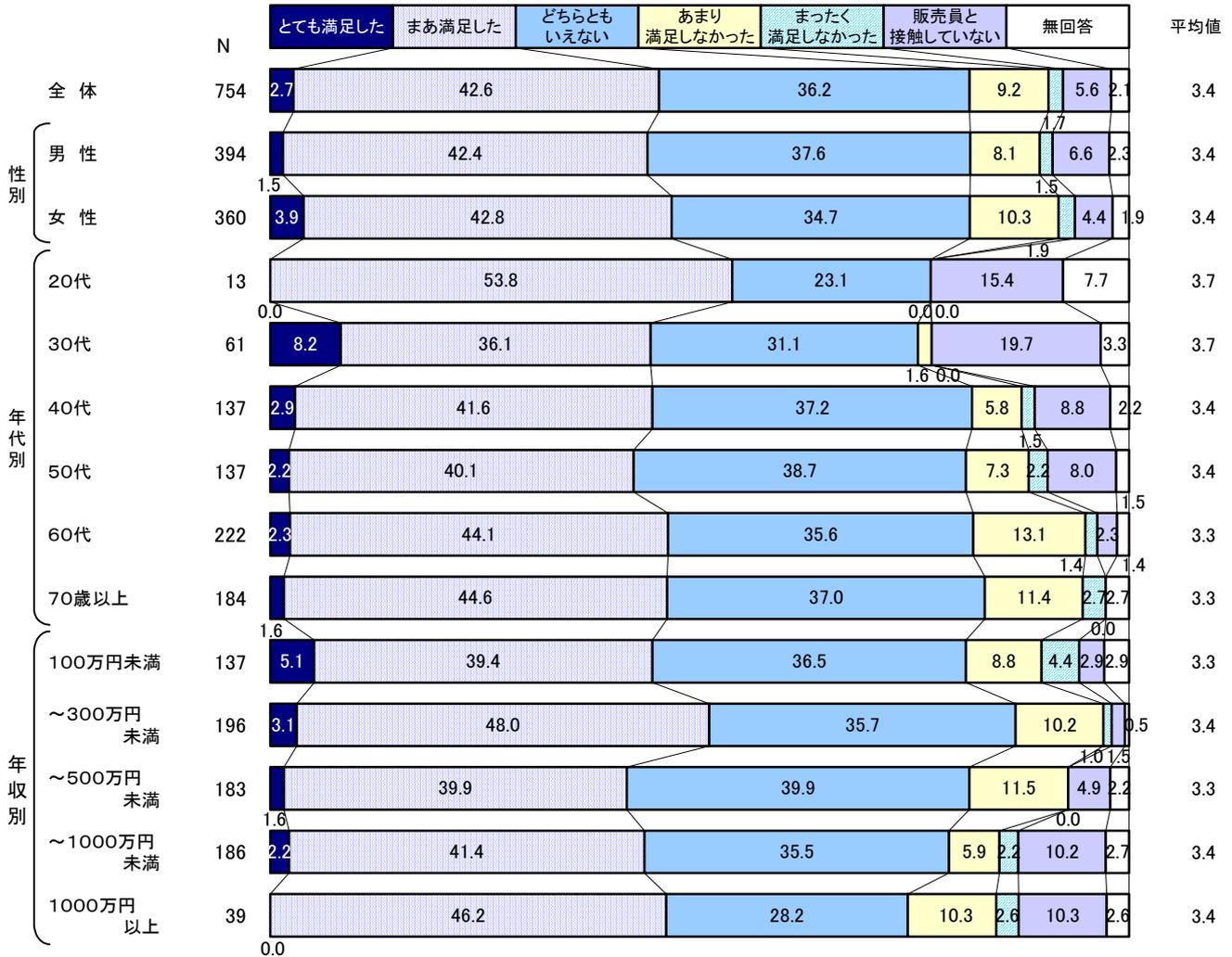
－現在保有層・保有経験層ベース】



【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／基本軸1

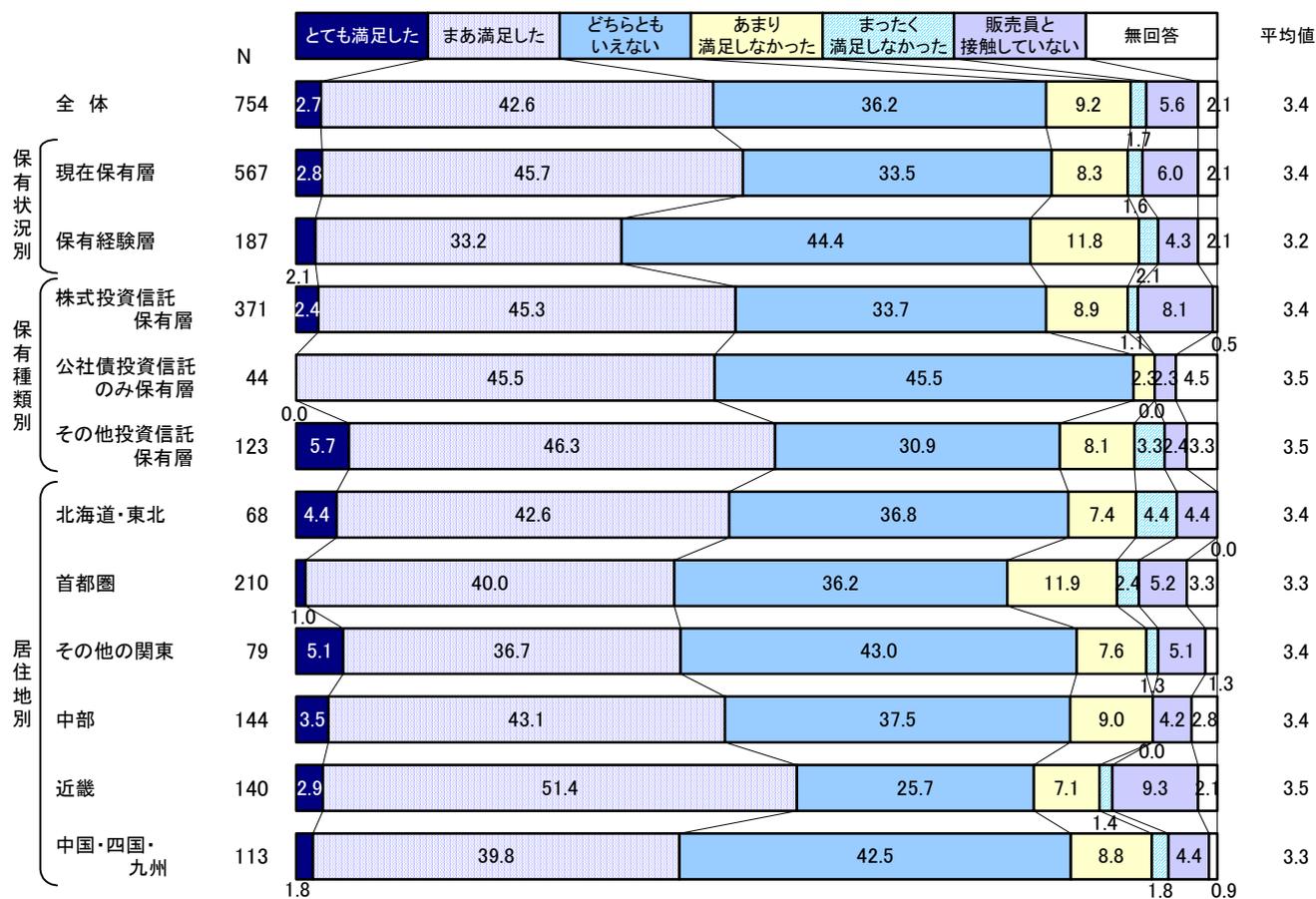
－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／基本軸2

ー現在保有層・保有経験層ベース



② 販売員の説明・勧誘への満足理由(説明・勧誘方法満足者)

販売員の説明・勧誘方法に満足した人に対し、その理由を尋ねたところ、「商品のリスクもきちんと説明した」が63.9%で最も高い。次いで、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が50.1%と高く、「質問にきちんと答えてくれた」(26.1%)と「自分のニーズにあった商品を勧めてくれた」(23.8%)が同程度で並んでいる。

平成21年の調査結果と比べると、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が5.0ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別でみると、「商品の魅力をわかりやすく説明した」は男性(46.8%)より女性(53.6%)の方がやや高いが、「質問にきちんと答えてくれた」は男性(30.1%)の方が女性(22.0%)よりやや高い。

年代別にみると、70歳以上では「質問にきちんと答えてくれた」(38.8%)が他の年代に比べてやや高い。

年収別では、「～1000万円未満」の層は「商品の魅力をわかりやすく説明した」(38.3%)が他の層より低い。

投資信託保有状況別では、大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「商品の魅力をわかりやすく説明した」が44.6%でその他投資信託保有層(56.3%)より低いが、「質問にきちんと答えてくれた」は32.2%で、その他投資信託保有層(18.8%)より高い。

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／時系列

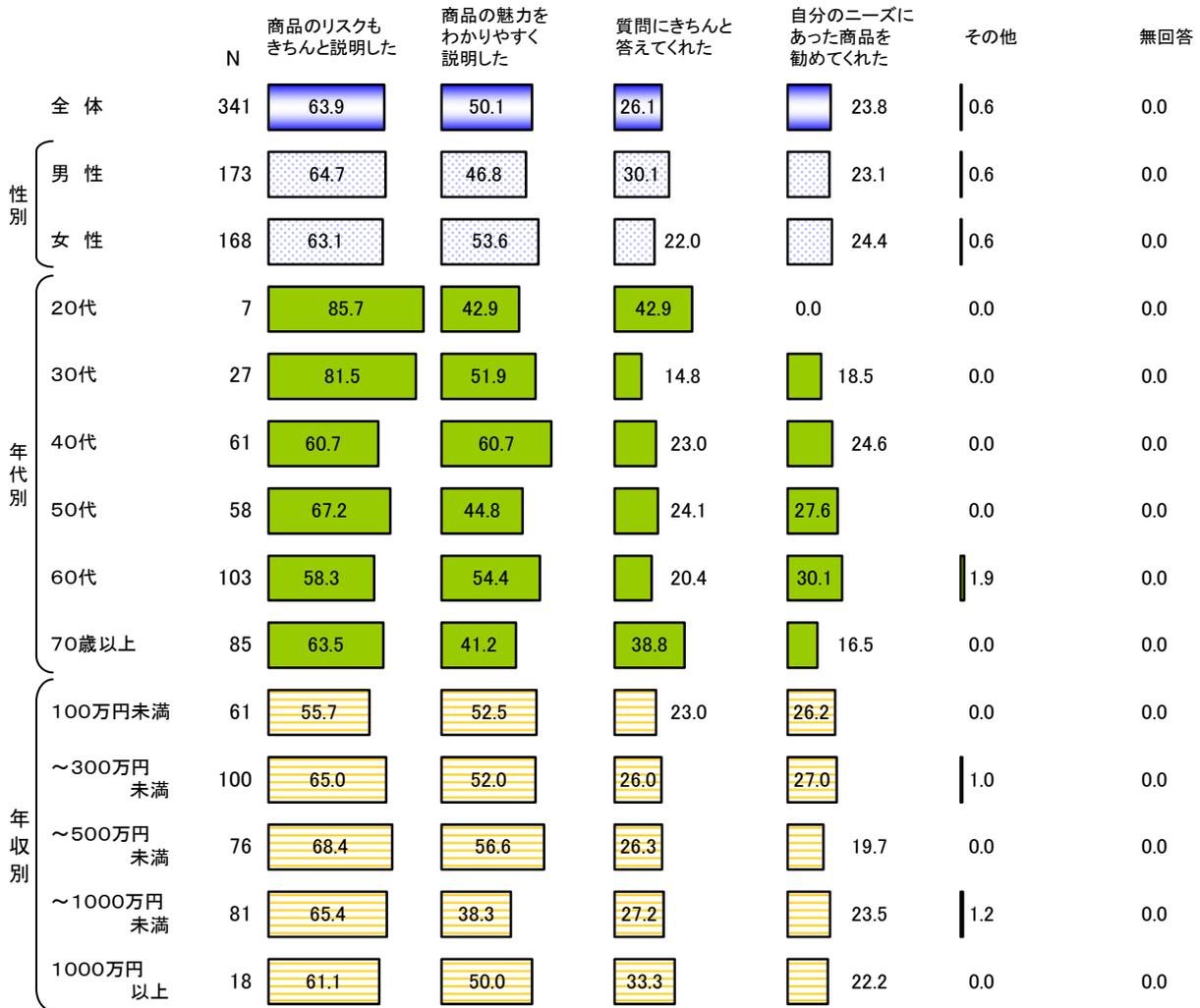
－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

	N	商品のリスクも きちんと説明した	商品の魅力を わかりやすく 説明した	質問にきちんと 答えてくれた	自分のニーズに あった商品を 勧めてくれた	その他	無回答
平成24年	341	63.9	50.1	26.1	23.8	0.6	0.0
平成21年	308	66.9	45.1	27.6	21.8	1.3	1.0
平成18年	280	56.8	46.8	27.5	26.1	1.4	0.7

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／基本軸1

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

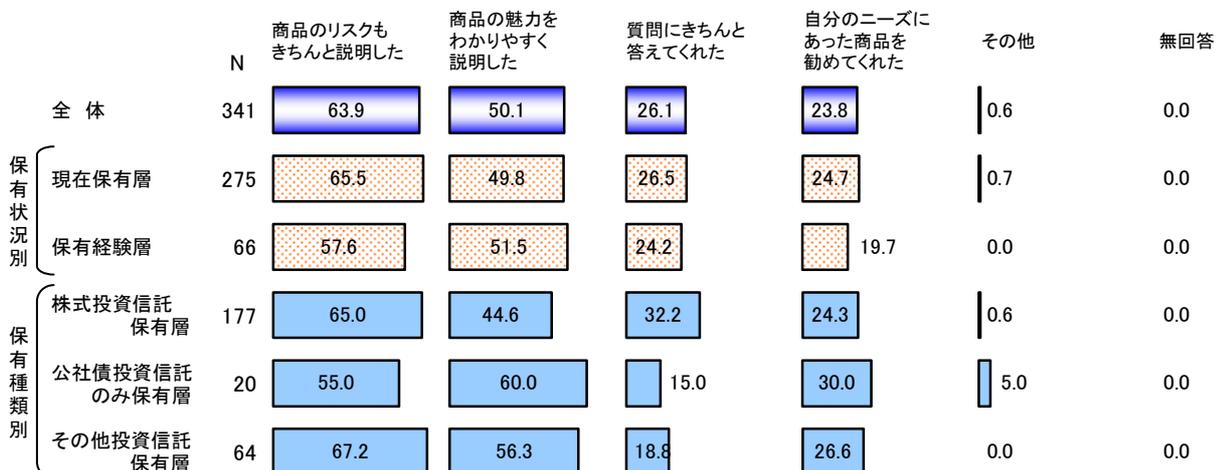
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／基本軸2

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



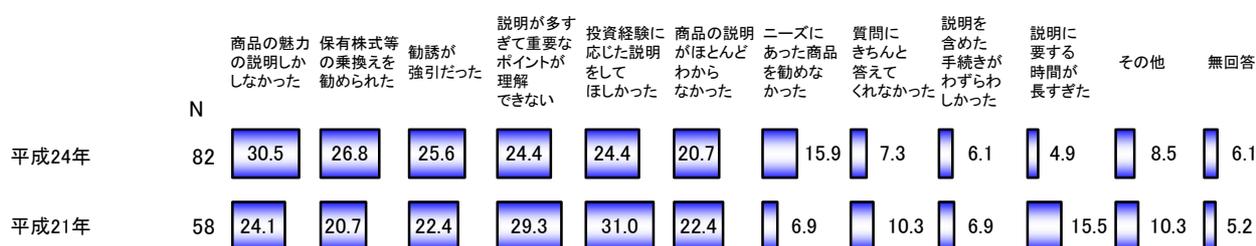
③ 販売員の説明・勧誘への不満理由(説明・勧誘方法不満者)

販売員の説明・勧誘方法に満足しなかった人に対し、その理由を尋ねたところ、「商品の魅力の説明しかなかった」が30.5%で最も高く、以下「保有株式等の乗換えを勧められた」(26.8%)、「勧誘が強引だった」(25.6%)、「説明が多すぎて重要なポイントが理解できなかった」、「投資経験に応じた説明をしてほしかった」(ともに24.4%)、「商品の説明がほとんどわからなかった」(20.7%)がほぼ同程度で並んでいる。

平成21年の調査結果と比べると、「ニーズにあった商品を勧めなかった」がやや高くなったが、「説明に要する時間が長すぎた」はやや低くなった。

【販売員の説明・勧誘への不満理由(重複回答)／時系列

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法不満者ベース



*平成21年より回答数が(2つまで)から(いくつでも)に変更されている

*平成21年より下記の選択肢が追加されている

「説明に要する時間が長すぎた」

「説明が多すぎてポイントが理解できない」

「投資経験に応じた説明をしてほしかった」

「説明を含めた手続きがわずらわしかった」

【参考：平成18年調査結果】

N	商品の魅力の説明しかなかった	商品の説明がわからなかった	勧誘が強引だった	保有株式等の乗換えを勧められた	ニーズにあった商品を勧めなかった	質問にきちんと答えられなかった	その他	無回答
33	45.5	36.4	15.2	15.2	12.1	6.1	18.2	0.0

(4) 投資信託購入時の重視点

①購入した際の重視点〔問11①〕

投資信託を購入した際の重視点は、「安全性の高さ」(45.9%)と「値上がり期待」(40.3%)が同程度に並んで最も高い。以下、「過去の運用実績」(31.4%)、「過去の分配金額」(27.3%)、「分配頻度の多さ」(21.8%)の順に続く。

今後購入する際に重視したい点と比べると、「安全性の高さ」は今後の方が大きく上回っており、「商品内容のわかりやすさ」も重視度が高い。一方、「過去の運用実績」、「過去の分配金額」、「分配頻度の多さ」は今後の重視度のほうが低い。

対象者属性別では、性別でみると、「安全性の高さ」と「分配頻度の多さ」の重視率は男性より女性の方が高いが、「過去の運用実績」、「商品コンセプト」は男性の方が高い。

年代別では、40代は他の年代に比べ「安全性の高さ」の重視度は高いが、「値上がり期待」の重視度は低い。「過去の運用実績」も40代を中心とした層で高い。「過去の分配金額」の重視度は若年層ほどやや高く、60代が最も低い。

年収別では、「値上がり期待」の重視度は「～500万円未満」の中間層で比較的高い。「過去の運用実績」の重視度も『100万円以上～1000万円未満』の幅広い中間層でやや高い。「過去の分配金額」や「分配頻度の多さ」の重視度は年収が低い層ほどやや高い傾向がみられる。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べ「分配頻度の多さ」や「商品コンセプト」の重視度は高いが、「安全性の高さ」、「過去の運用実績」、「換金のしやすさ」、「商品内容のわかりやすさ」の重視度はやや低い。

投資信託保有種類別では、「安全性の高さ」の重視度は公社債投資信託のみ保有層で63.6%と他2層に比べて高い。「値上がり期待」の重視度は株式投資信託保有層(43.7%)がその他投資信託保有層(37.4%)をやや上回るが、公社債投資信託のみ保有層はこの重視度が18.2%とかなり低い。

【投資信託を購入した際の重視点&今後購入する際に、重視したい点(重複回答)】

ー現在保有層・保有経験層ベース



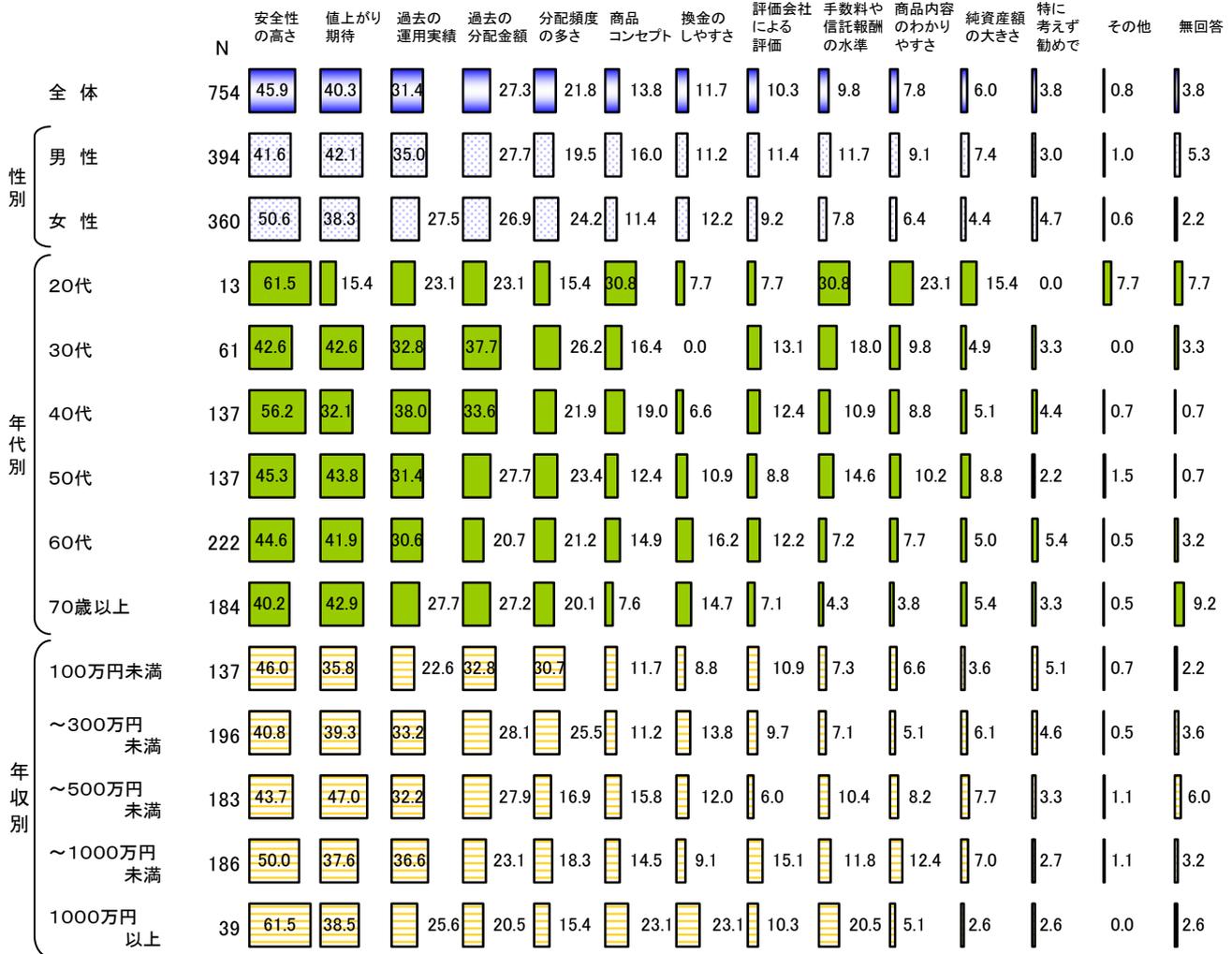
【参考：平成21年、18年調査結果】



【投資信託を購入した際の重視点(重複回答)／基本軸1

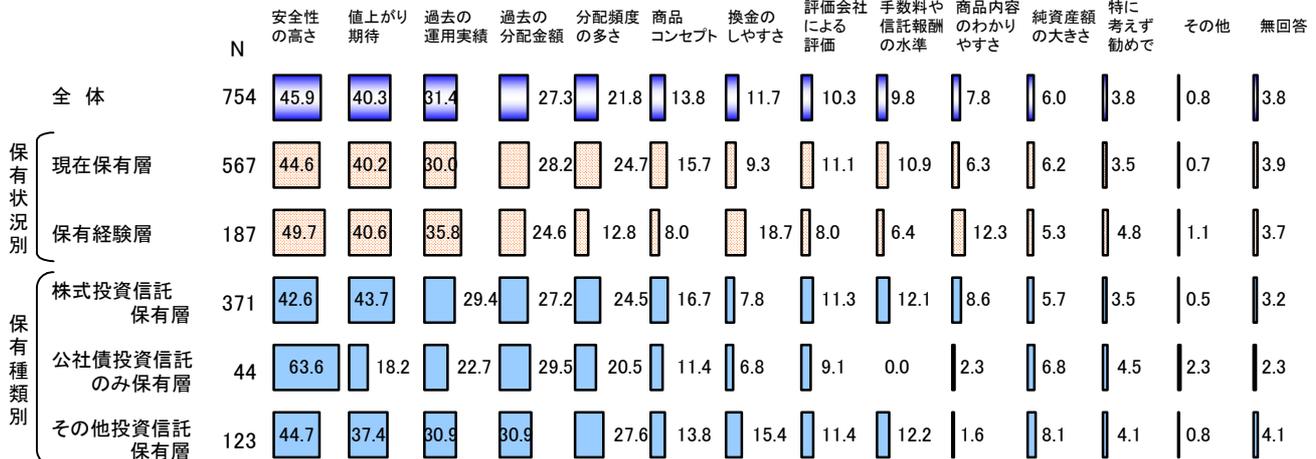
－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託を購入した際の重視点(重複回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース



②今後重視したい点〔問11②〕

投資信託を今後購入する際に重視したい点は、「安全性の高さ」が59.9%で最も高く、「値上がり期待」が36.1%で第2位である。次いで「過去の運用実績」が21.4%で続くが、これら以外は10%台以下に過ぎない。

対象者属性別では、性別で見ると、「安全性の高さ」の重視度は男性（55.3%）より女性（65.0%）の方が高いが、「過去の運用実績」と「商品コンセプト」の重視度は男性の方が高い。

年代別では、「安全性の高さ」の重視度は40～50代を中心とした山型となっている。「手数料や信託報酬の水準」の重視度は若年層ほど高い傾向がみられる。

年収別では、「値上がり期待」の重視度は「～1000万円未満」の層では46.8%とやや高い。「1000万円以上」の高年収層は「過去の運用実績」、「換金のしやすさ」、「手数料や信託報酬の水準」、「分配頻度の多さ」、「商品コンセプト」などの重視度が高めであり、今後も多様な点を重視して購入するものとみられる。

投資信託保有状況別にみると、「安全性の高さ」、「値上がり期待」、「分配頻度の多さ」の重視度は、現在保有層の方が保有経験層よりやや高いが、「換金のしやすさ」、「商品内容のわかりやすさ」の重視度は保有経験層の方が高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他の2層に比べ「値上がり期待」の重視度は高いが、「分配頻度の多さ」の重視度は低い。公社債投資信託のみ保有層は他の2層に比べ「安全性の高さ」と「過去の分配金額」の重視度は高いが、「値上がり期待」の重視度は15.9%とかなり低い。その他投資信託保有層は他の2層に比べ「過去の運用実績」の重視度は低い、「換金のしやすさ」の重視度はやや高い。

【投資信託を今後購入する際に、重視したい点（重複回答）／基本軸1

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	安全性の高さ	値上がり期待	過去の運用実績	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	手数料や信託報酬の水準	分配頻度の多さ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	特に考えず勤めて	その他	無回答
全体	754	59.9	36.1	21.4	15.0	14.2	14.1	13.3	12.3	12.1	10.5	7.0	0.5	2.3	10.3
性別															
男性	394	55.3	37.1	24.6	16.0	16.0	12.2	15.0	11.7	15.0	10.9	8.9	0.5	1.3	10.9
女性	360	65.0	35.0	17.8	13.9	12.2	16.1	11.4	13.1	8.9	10.0	5.0	0.6	3.3	9.7
年代別															
20代	13	76.9	23.1	15.4	7.7	15.4	23.1	30.8	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0	7.7	7.7
30代	61	55.7	44.3	21.3	11.5	16.4	9.8	24.6	18.0	18.0	11.5	9.8	0.0	1.6	4.9
40代	137	64.2	36.5	28.5	11.7	13.1	10.9	16.8	10.9	19.0	13.9	5.1	0.7	0.7	5.8
50代	137	66.4	38.7	17.5	13.1	15.3	16.8	16.8	12.4	10.9	14.6	7.3	0.0	0.0	7.3
60代	222	59.0	34.7	20.7	15.8	11.3	14.0	11.3	12.2	12.6	7.7	8.1	1.4	4.1	10.8
70歳以上	184	53.3	33.7	20.1	19.6	16.8	15.2	5.4	12.0	5.4	8.2	5.4	0.0	2.7	17.4
年収別															
100万円未満	137	67.9	29.9	13.1	10.9	12.4	18.2	10.9	17.5	8.0	12.4	5.1	0.7	3.6	7.3
～300万円未満	196	54.1	35.7	18.4	14.8	12.8	13.8	10.7	11.2	7.7	7.1	6.6	1.5	3.1	14.8
～500万円未満	183	57.4	32.2	23.5	18.6	14.2	15.3	14.8	10.4	14.2	10.4	6.6	0.0	2.7	10.9
～1000万円未満	186	64.0	46.8	26.3	12.4	16.7	11.3	15.6	10.8	16.1	14.0	10.2	0.0	0.5	5.9
1000万円以上	39	56.4	30.8	30.8	28.2	12.8	10.3	20.5	20.5	20.5	5.1	5.1	0.0	0.0	10.3

【投資信託を今後購入する際に、重視したい点（重複回答）／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	安全性の高さ	値上がり期待	過去の運用実績	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	手数料や信託報酬の水準	分配頻度の多さ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	特に考えず勤めて	その他	無回答
全体	754	59.9	36.1	21.4	15.0	14.2	14.1	13.3	12.3	12.1	10.5	7.0	0.5	2.3	10.3
保有状況別															
現在保有層	567	61.4	38.3	20.6	12.9	13.6	12.9	13.6	13.8	12.9	9.7	7.4	0.5	1.4	9.2
保有経験層	187	55.6	29.4	23.5	21.4	16.0	17.6	12.3	8.0	9.6	12.8	5.9	0.5	4.8	13.9
保有種類別															
株式投資信託保有層	371	62.5	41.8	21.8	11.9	12.4	12.4	14.8	11.9	14.6	10.5	7.3	0.5	1.6	8.6
公社債投資信託のみ保有層	44	72.7	15.9	20.5	9.1	22.7	13.6	6.8	15.9	6.8	11.4	9.1	2.3	0.0	6.8
その他投資信託保有層	123	59.3	35.8	12.2	17.9	12.2	14.6	13.0	19.5	10.6	7.3	8.9	0.0	0.8	9.8

(5) 投資信託の「分配金」特徴認知〔問12〕

投資信託の「分配金」の特徴について知っているものは、「貯金の利率のように決まっているものでなく、運用成績によって変動する」が88.3%で最も高い。「運用成績がよくないときには、支払われない」は68.2%、「投資信託の決算ごとに支払われる」は50.4%が認知している。一方、「支払われた額だけ、基準価額が下がる」は30.2%と認知率は低い。

対象者属性別では、性別でみると、「貯金の利率のように決まっているものでなく、運用成績によって変動する」の認知率には差はみられないが、他3項目の認知率はともに男性の方が女性より高い。

年代別では、「運用成績がよくないときには、支払われない」の認知率は30代では高いが、70歳以上では低い。「支払われた額だけ、基準価額が下がる」の認知率は40代でやや低い。

年収別では、「支払われた額だけ、基準価額が下がる」の認知率は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。「1000万円以上」の高年収層では「投資信託の決算ごとに支払われる」の認知率も高く、多様な知識を持っている。

投資信託保有状況別にみると、保有経験層は現在保有層に比べ「投資信託の決算ごとに支払われる」、「支払われた額だけ、基準価額が下がる」の認知率が低く、分配金の特徴の認知は進んでいない。

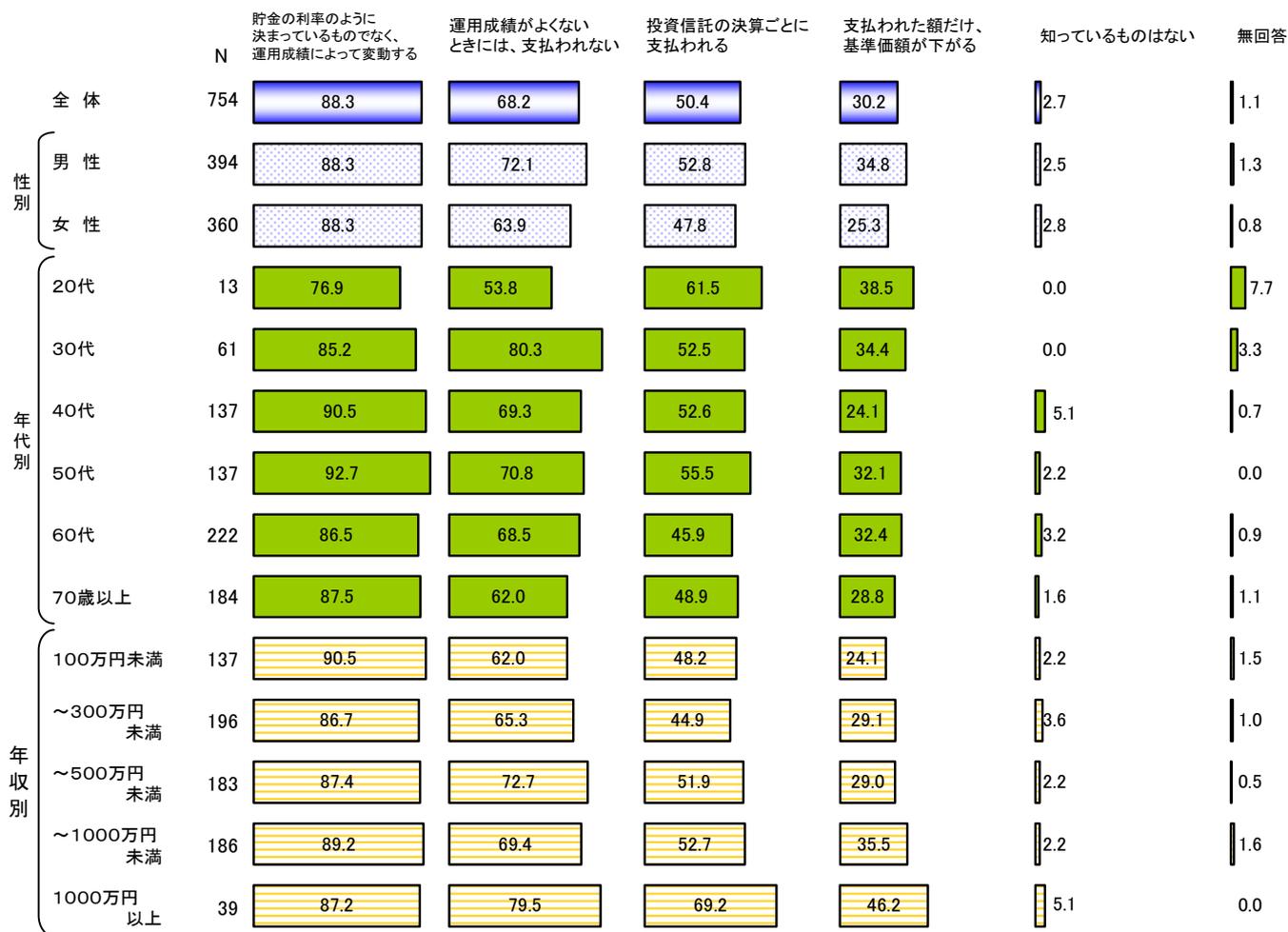
投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層は他の2層に比べ認知率が高い項目が多く、全般的に特徴をよく理解している。

地域別にみると、その他の関東では「投資信託の決算ごとに支払われる」、「支払われた額だけ、基準価額が下がる」の認知率が他の地域より高い。北海道・東北では「投資信託の決算ごとに支払われる」の認知率が他の地域より低い。

【投資信託の「分配金」特徴認知（重複回答）／基本軸1

－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の「分配金」特徴認知（重複回答）／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	貯金の利率のように 決まっているものでなく、 運用成績によって変動する	運用成績がよくない ときには、支払われない	投資信託の決算ごとに 支払われる	支払われた額だけ、 基準価額が下がる	知っているものはない	無回答
全体	754	88.3	68.2	50.4	30.2	2.7	1.1
保有状況別	現在保有層	87.8	68.8	52.4	34.0	2.5	1.2
	保有経験層	89.8	66.3	44.4	18.7	3.2	0.5
保有種類別	株式投資信託 保有層	91.1	71.7	53.6	37.5	1.6	0.0
	公社債投資信託 のみ保有層	81.8	56.8	54.5	20.5	4.5	0.0
	その他投資信託 保有層	82.9	62.6	47.2	31.7	4.9	2.4
居住地別	北海道・東北	86.8	73.5	36.8	29.4	1.5	1.5
	首都圏	87.1	70.5	51.9	28.6	3.3	1.0
	その他の関東	93.7	69.6	63.3	43.0	1.3	0.0
	中部	85.4	68.8	52.1	27.1	4.2	0.7
	近畿	87.9	63.6	47.9	25.7	2.1	2.1
	中国・四国・ 九州	113	92.0	64.6	47.8	34.5	1.8

(6) 投資信託の購入資金〔問7〕

投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」が41.6%で最も高く、次いで「月々の収入から」(28.8%)が高い。以下、「退職金・相続等の臨時収入から」(19.8%)、「株式・債券等卖了たお金」(13.5%)、「ボーナスから」(10.6%)の順に続く。時系列でみると、「他の投資信託を卖了たお金」は増加傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、女性の方が「定期性の預貯金等から」と「生保・損保の満期・解約金から」は高いが、男性の方が「退職金・相続等の臨時収入から」、「株式・債券を卖了たお金」は高い。

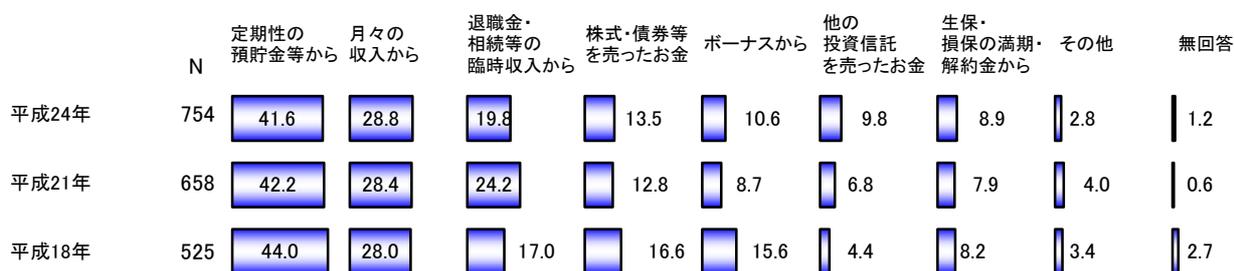
年代別では、「月々の収入から」は若年層ほど高く、30代では「定期性の預貯金等から」を上回り、これがトップとなっている。一方、「退職金・相続等の臨時収入から」、「株式・債券等卖了たお金」は年代が上がるにつれ高くなり、特に60代以上で高い。「他の投資信託を卖了たお金」も70歳以上で高く、高年齢層ほど多様な資金から購入している。ただし、「ボーナスから」は50代以下に比べ、60代以上では低い。

年収別では、「月々の収入から」は年収が『300万円未満』の低年収層に比べ『500万円以上』の層ではほぼ倍の比率と高い。一方、「他の投資信託を卖了たお金」は年収が低いほど高い傾向がみられる。「退職金・相続等の臨時収入から」は「1000万円以上」の高年収層では低く、『100万円以上500万円未満』の中間層で高い。「生保・損保の満期・解約金から」も「～300万円未満」の層でやや高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層は保有経験層に比べ「月々の収入から」、「退職金・相続等の臨時収入から」、「他の投資信託を卖了たお金」が高いが、「株式・債券を卖了たお金」、「ボーナスから」は低い。

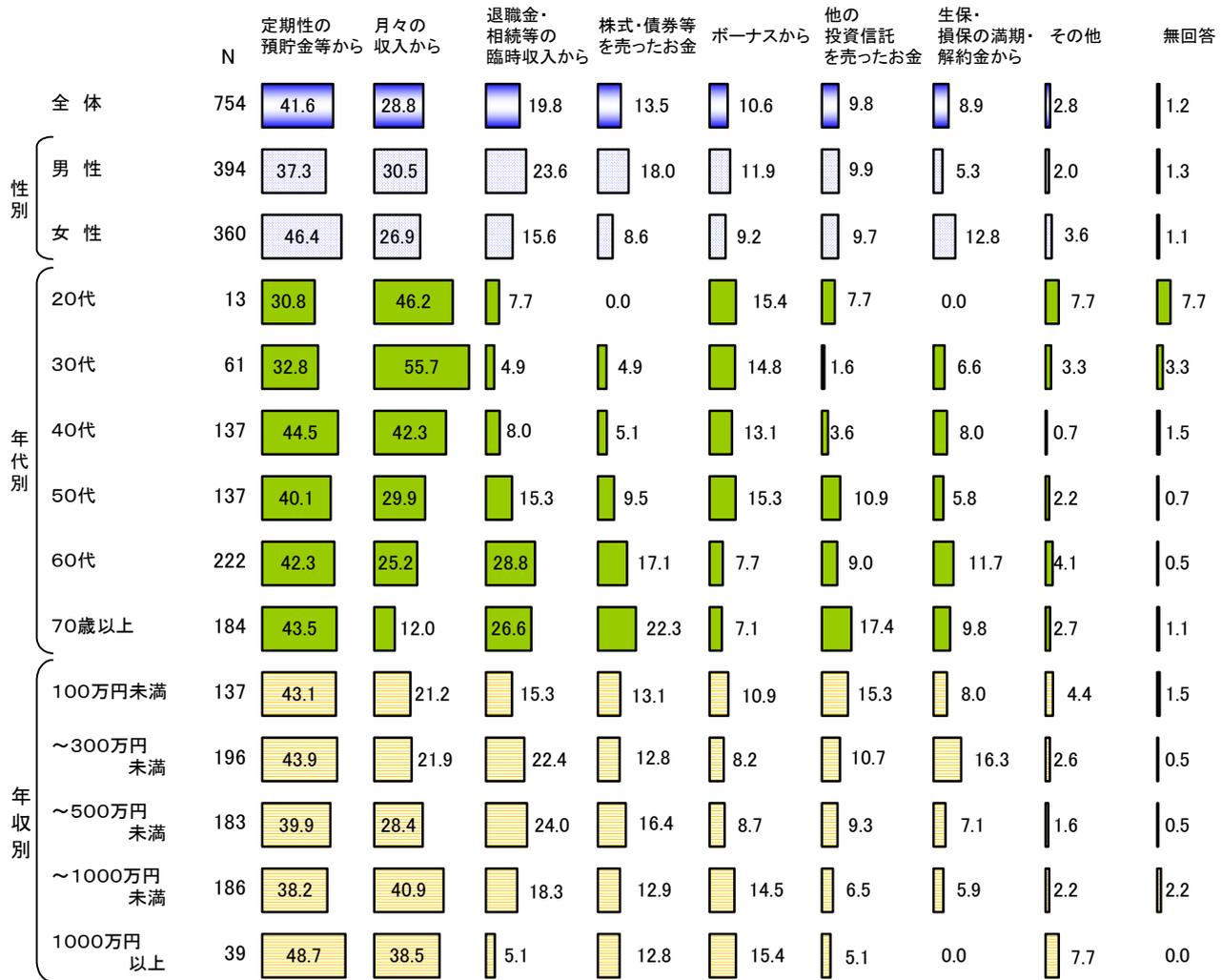
投資信託保有種類別では、その他投資信託保有層は他2層に比べ、「月々の収入から」が低い。公社債投資信託のみ保有層は「他の投資信託を卖了たお金」を資金とする率は今回の調査ではみられず、他の2層より低い。

【投資信託の購入資金(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

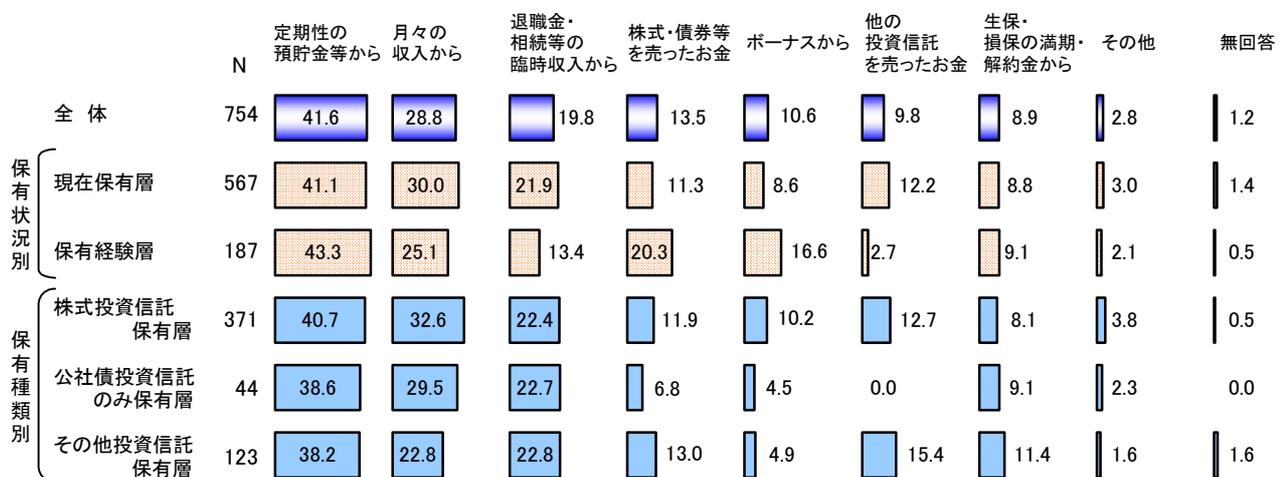


【投資信託の購入資金(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入資金(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】



(7) 投資信託の購入目的〔問6〕

投資信託を購入した目的は、「老後の生活資金」が40.8%で最も高い。次いで、「資産のリスク分散」(30.5%)が高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」(31.7%)もほぼ同程度で高い。他の理由は10%台以下と低い。

時系列でみると、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は微増傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「老後の生活資金」と「資産のリスク分散」はともに高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は男性(24.4%)より女性(39.7%)の方が高い。

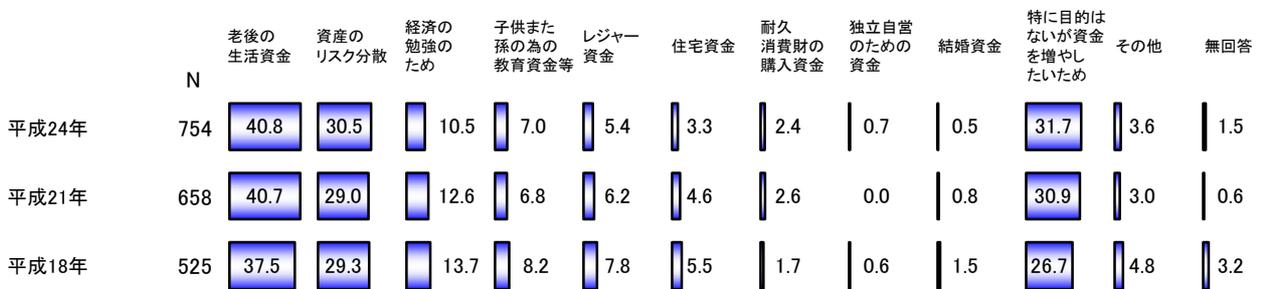
年代別では、「老後の生活資金」は年代が上がるにつれて高くなり、60代以上の高年齢層では50%を超える。一方、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は若年層ほど高い傾向がみられる。「資産のリスク分散」目的での購入率は40代でやや低い。

年収別では、「資産のリスク分散」は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。一方、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は「1000万円以上」の高年収層では20.5%に過ぎないのに対し、「100万円未満」の低年収層では43.8%にのぼり、これがトップとなっている。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は保有経験層に比べ「老後の生活資金」を目的に購入した率は高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」はやや低い。

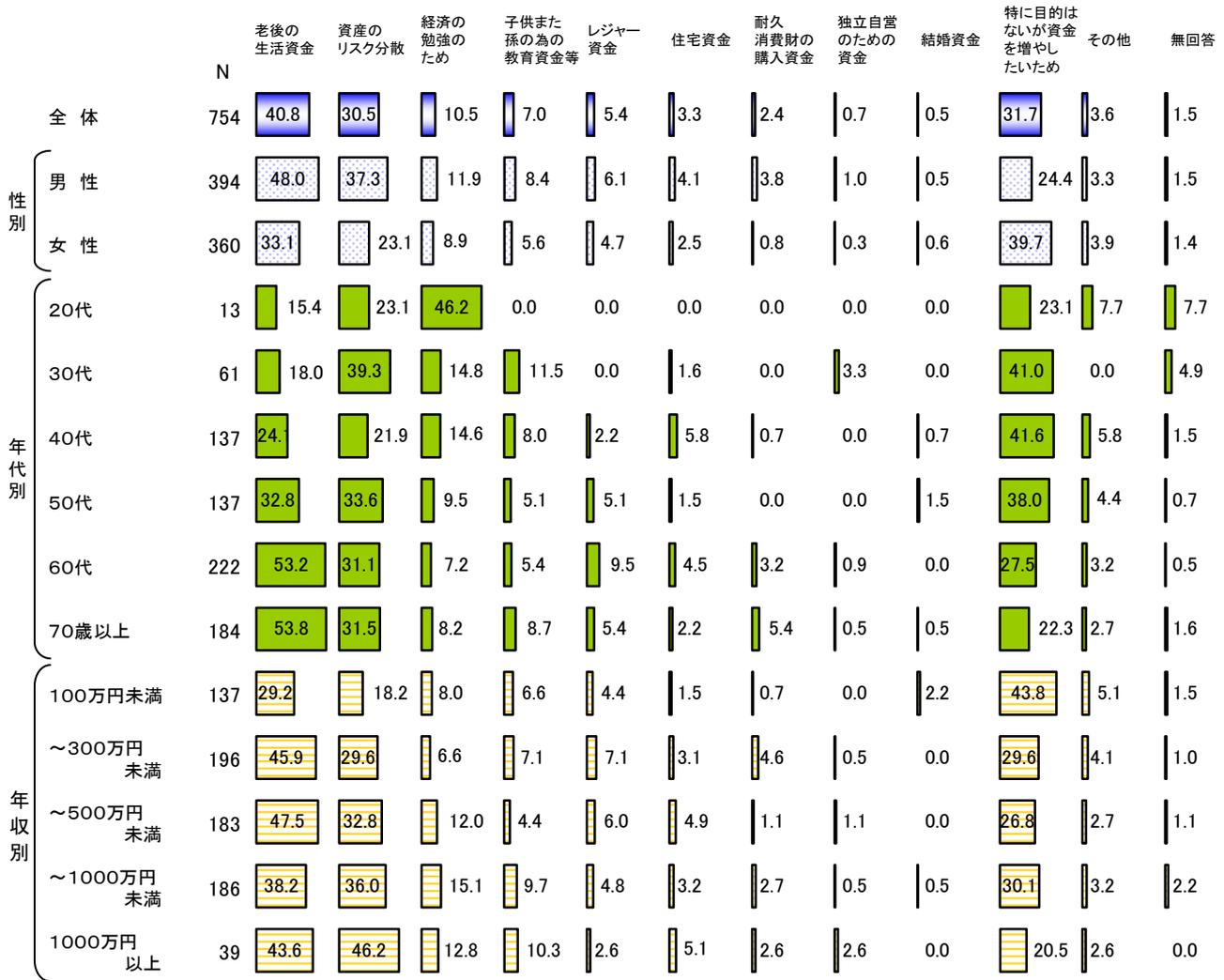
投資信託保有種類別では、公社債投資信託のみ保有層は他2層に比べ「特に目的はないが資金を増やしたいため」が高い。

【投資信託の購入目的(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

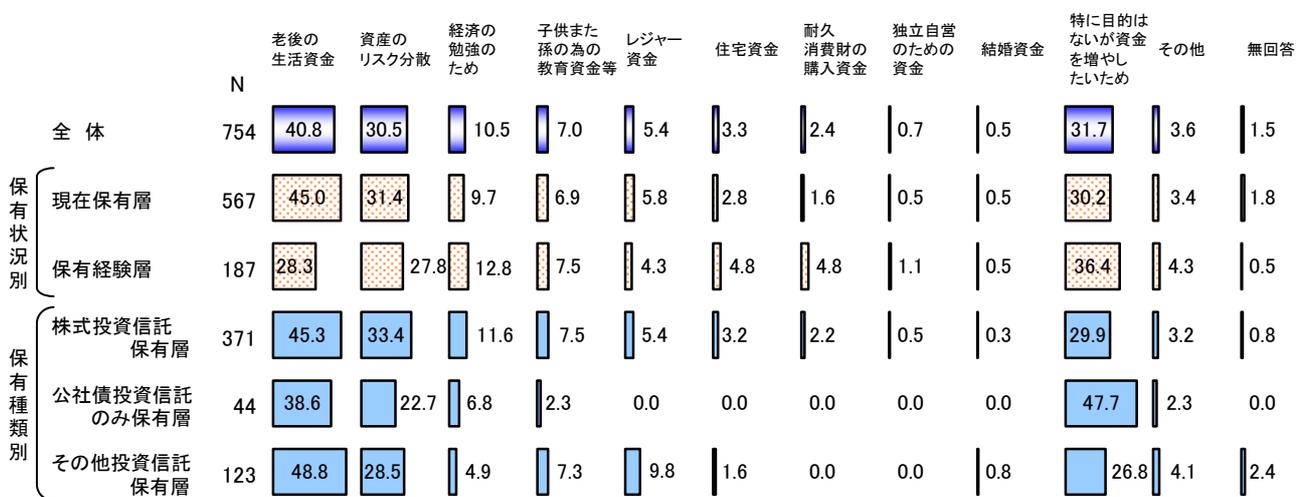


【投資信託の購入目的(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入目的(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】



(8) 投資信託の運用実績評価〔問 15〕

投資信託の運用実績の評価は、「期待した以上だった」が 1.3%、「期待どおりの実績だった」が 9.5%であり、これらを合わせた“期待以上”は 10.8%である。一方、「期待していたよりもやや悪かった」は 32.9%、「全く期待はずれだった」は 39.3%である。これらを合わせた“期待以下”は 72.2%と過半数を占め、“期待以上”を大きく上回っている。また、「なんともいえない」も 16.0%みられる。なお、「期待した以上だった」から「まったく期待はずれだった」まで、4点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、運用実績の評価は 1.7 点となった。

時系列でみると、“期待以上”と「なんともいえない（わからない）」の比率はともに減少傾向がみられるのに対し、“期待以下”の比率は増加傾向がみられ、全般的に評価は下がり続けている。

対象者属性別では、性別でみると、男性で「期待どおりの実績だった」がやや高い。年代別にみると、“期待以上”の比率は年代が上がるにつれ低くなり、60代が最も低い。30代は「なんともいえない」が 29.5%と特に高いこともあり、“期待以下”が 52.5%と低い。

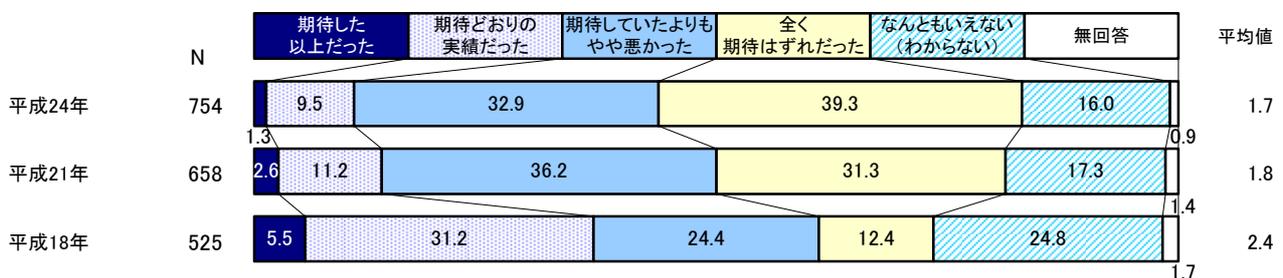
年収別では、“期待以上”は「～500万円未満」の層でやや高い。一方、“期待以下”の比率は 1000万円以上の高年収層で 84.6%と特に高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有経験層の運用実績評価には大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ“期待以上”が低く、“期待以下”が高いことから、全般的に評価が低い層であることがわかる。公社債投資信託のみ保有層は「なんともいえない」と評価を保留する率が高い。

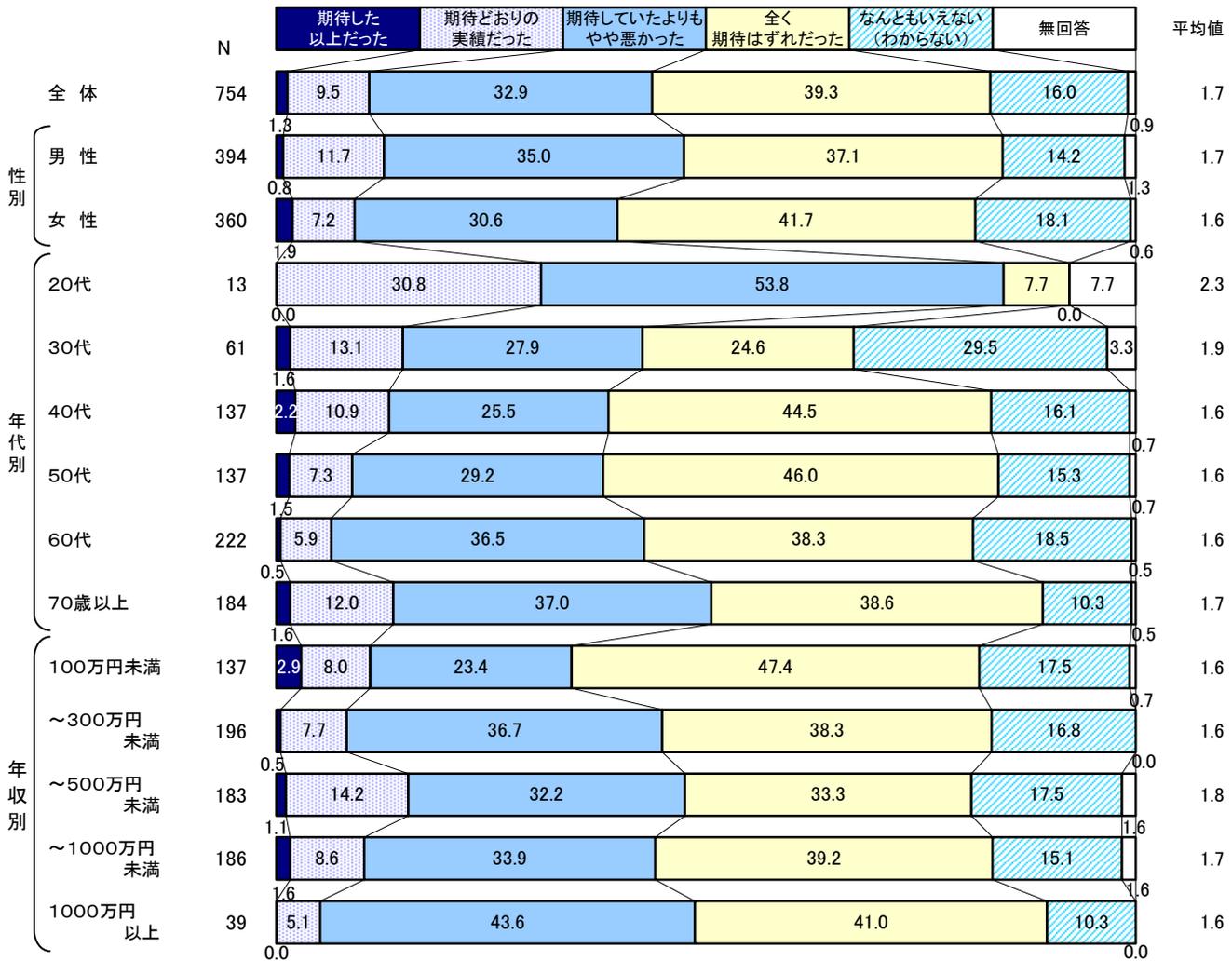
ちなみに、現在保有層ベースでみると「なんともいえない（わからない）」は 30代で最も高い。また、投資信託の保有種類を評価別でみると、“期待以上”の人は、「株式投資信託」の保有率が低いことがうかがえる。

【投資信託の運用実績評価(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

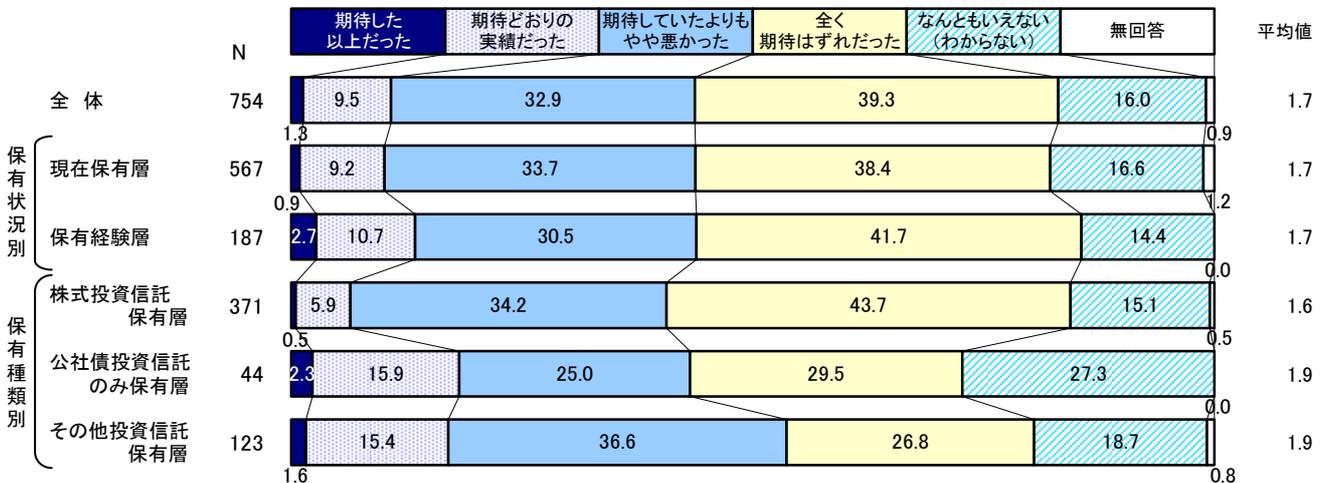


【投資信託の運用実績評価(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

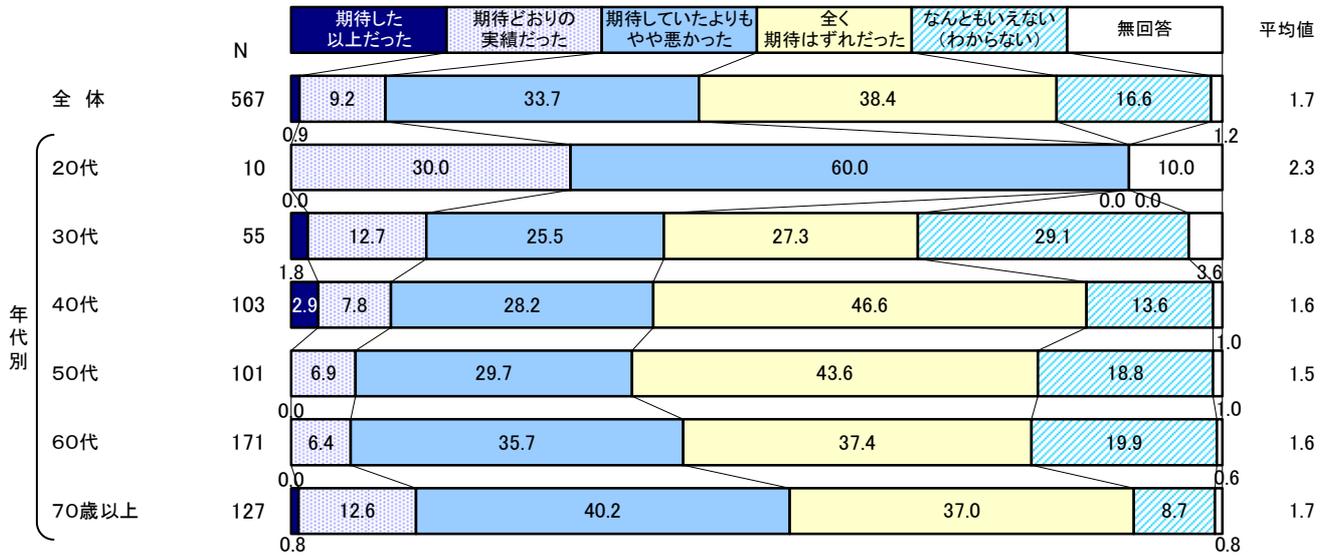


【投資信託の運用実績評価(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】



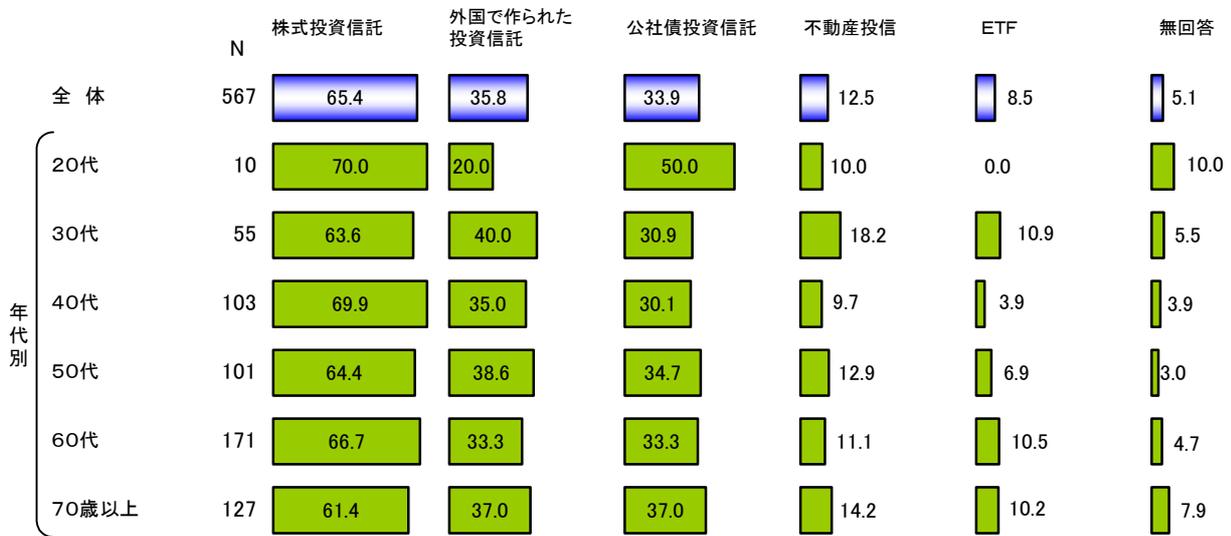
【投資信託の運用実績評価(単数回答)／年代－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

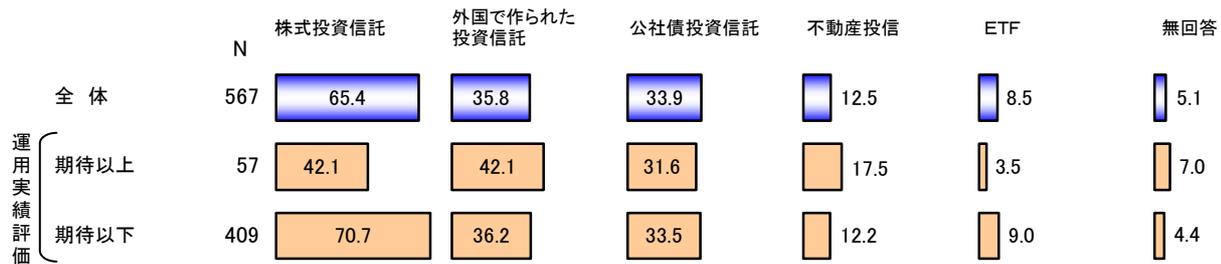


【投資信託の保有種類(重複回答)／年代－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の保有種類(重複回答)／投資信託の運用実績評価－現在保有層ベース】



*運用実績評価の「なんともいえない(わからない)」、「無回答」は除いた。

(9) 償還・売却資金の流出先〔問16〕

投資信託の償還あるいは売却によって得たお金は、「預貯金にまわした」が34.6%で最も高く、次いで「他の投資信託を購入した」(22.9%)、「生活資金にまわした」(21.4%)、「株式・債券を購入した」(13.3%)の順に高いが、「金融商品以外の商品の購入にあてた」は5.3%と低い。なお、「売却・償還したことはない」は19.5%みられる。

時系列でみると、「株式・債券を購入した」は減少傾向がみられる。平成21年調査の結果と比べると、「他の投資信託を購入した」が6.0ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別でみると、「株式・債券を購入した」は男性(18.8%)の方が女性(7.2%)より高い。

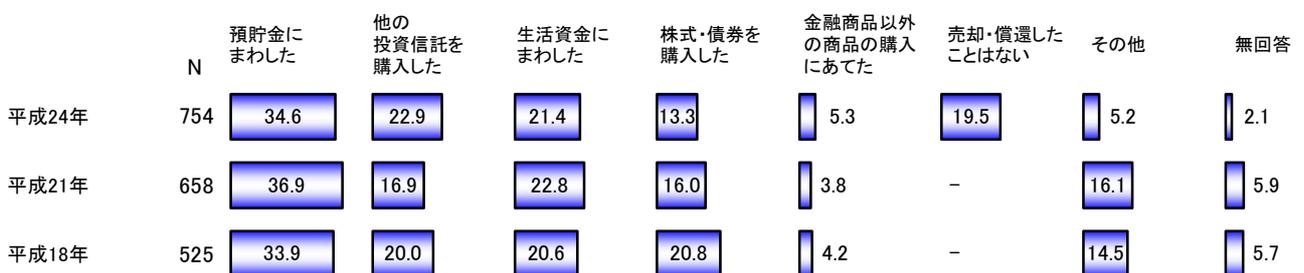
年代別では、「売却・償還したことはない」は若年層ほど高い傾向がみられる。30代では「預貯金にまわした」は18.0%と低く、「売却・償還したことはない」が39.3%でトップとなっている。一方、「株式・債券を購入した」は高年齢層ほど高く、70歳以上では20%を越える。

年収別では、「預貯金にまわした」は「～300万円未満」の層が最も高い山型となっており、「生活資金にまわした」も年収が低い層ほど高い。一方、「他の投資信託を購入した」は「1000万円以上」の高年収層でやや高く、「株式・債券を購入した」は『300万円未満』の低年収層に比べ、それ以上の層の方が高い。

投資信託保有状況別では、保有経験層は現在保有層に比べ「預貯金にまわした」や「生活資金にまわした」、「株式・債券を購入した」が高いが、「他の投資信託を購入した」は1.6%と低く、投資信託から遠ざかっている様子がうかがえる。保有経験層では「売却・償還したことはない」もほとんどみられない

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ、「預貯金にまわした」が低い。公社債投資信託のみ保有層は他2層に比べ「他の投資信託を購入した」がやや低い。その他投資信託保有層は他2層に比べ「生活資金にまわした」は高いが、「売却・償還したことはない」は低い。

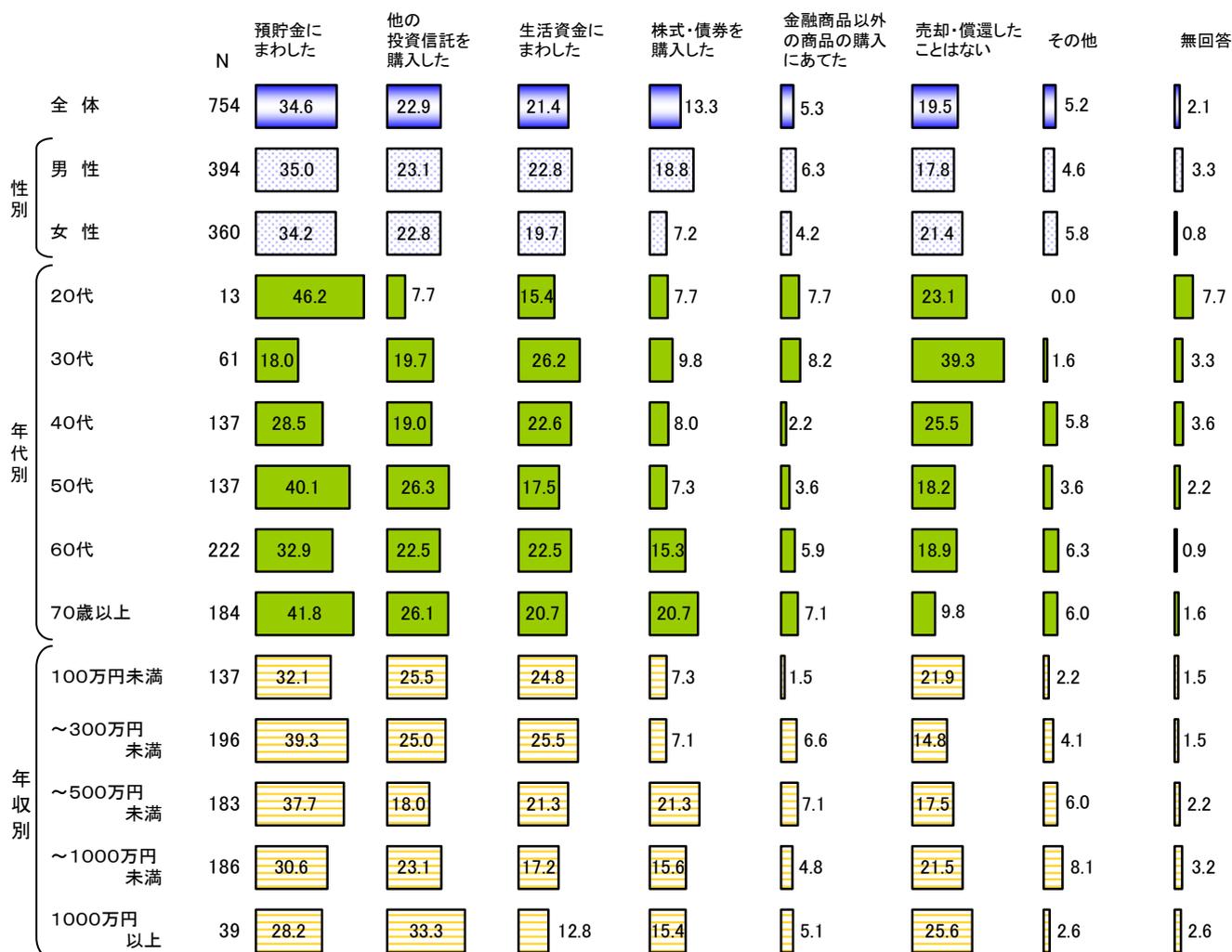
【償還・売却資金の流出先(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



*平成24年調査より「売却・償還したことはない」の選択肢が追加されている

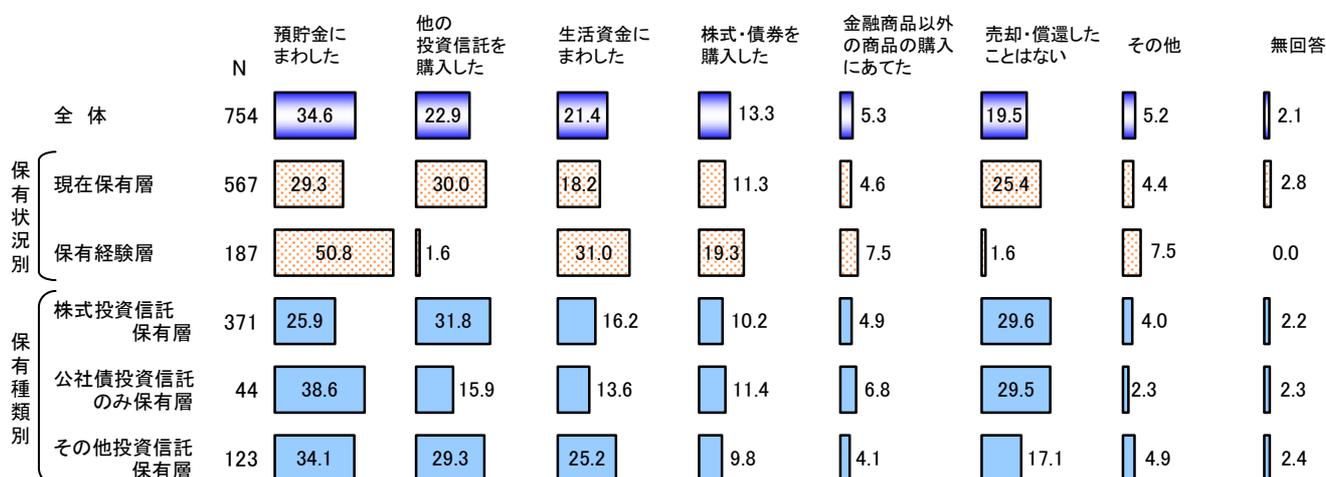
【償還・売却資金の流出先(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【償還・売却資金の流出先(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(10) 目論見書閲読状況〔問 13、問 13-1〕

① 目論見書閲読経験

投資信託購入の際に交付される『投資信託説明書（目論見書）』を「全部読んだ」のは3.2%、「必要と思われる項目を読んだ」は34.2%であり、これらを合わせた“閲読率”は37.4%である。一方、「あまり読まなかった」は60.9%と過半数を占める。

平成21年の調査結果と比べて、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、“閲読率”は男性が45.2%と半数近くが読んでいるのに対し、女性は28.9%に過ぎず、あまり読んでいない。

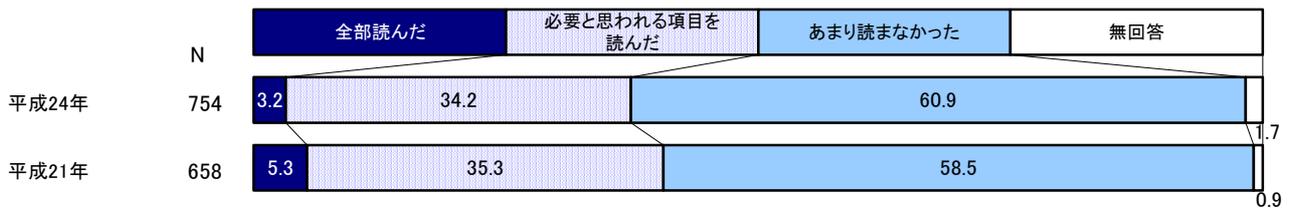
年代別の“閲読率”は40代が29.9%で最も低い谷型となっている。

年収別では、年収が上がるにつれ“閲読率”も高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別では、“閲読率”は現在保有層(38.6%)の方が保有経験層(33.7%)より高い。

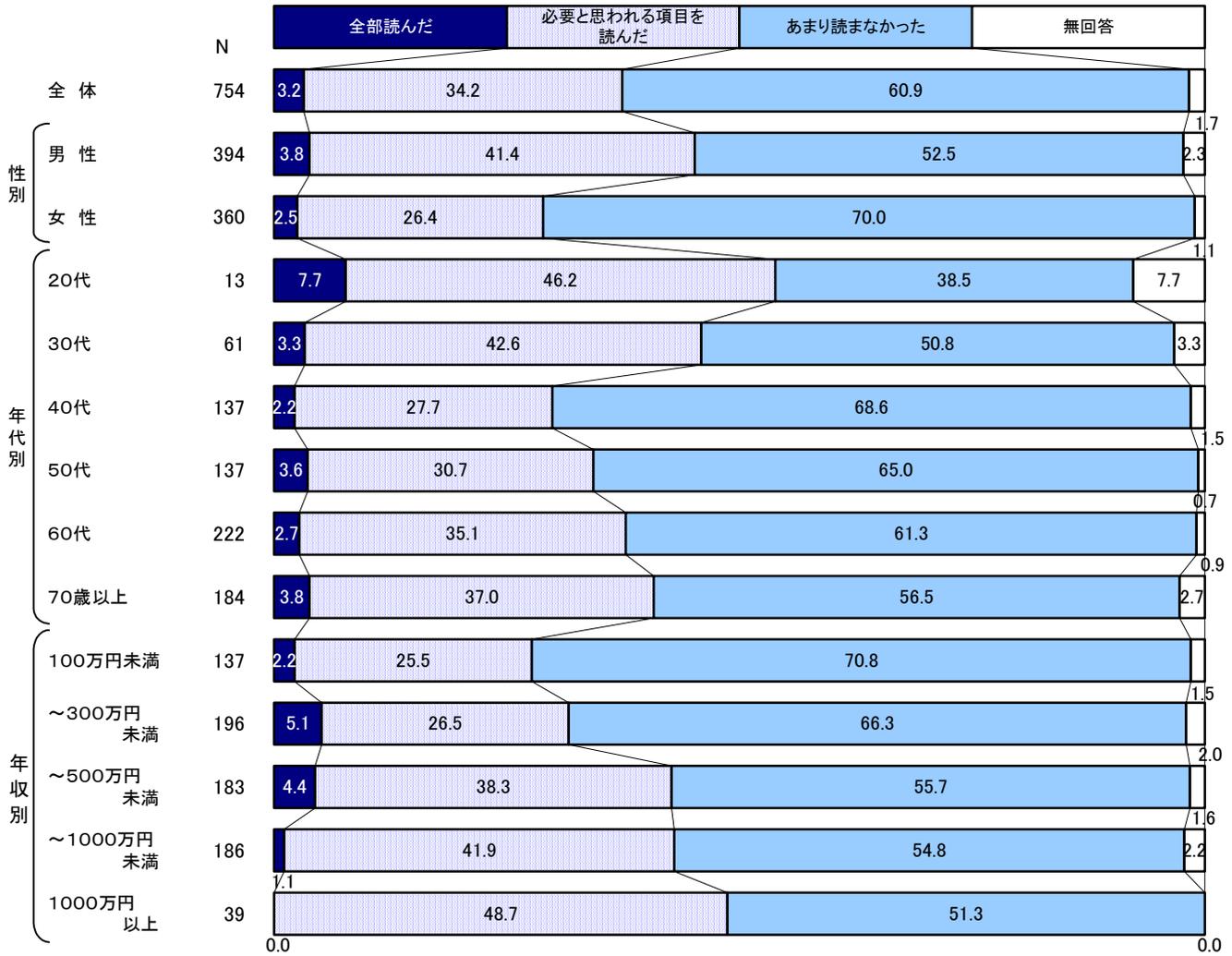
投資信託保有種類別では、各層の“閲読率”に大きな差はみられない。

【目論見書閲読経験(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】

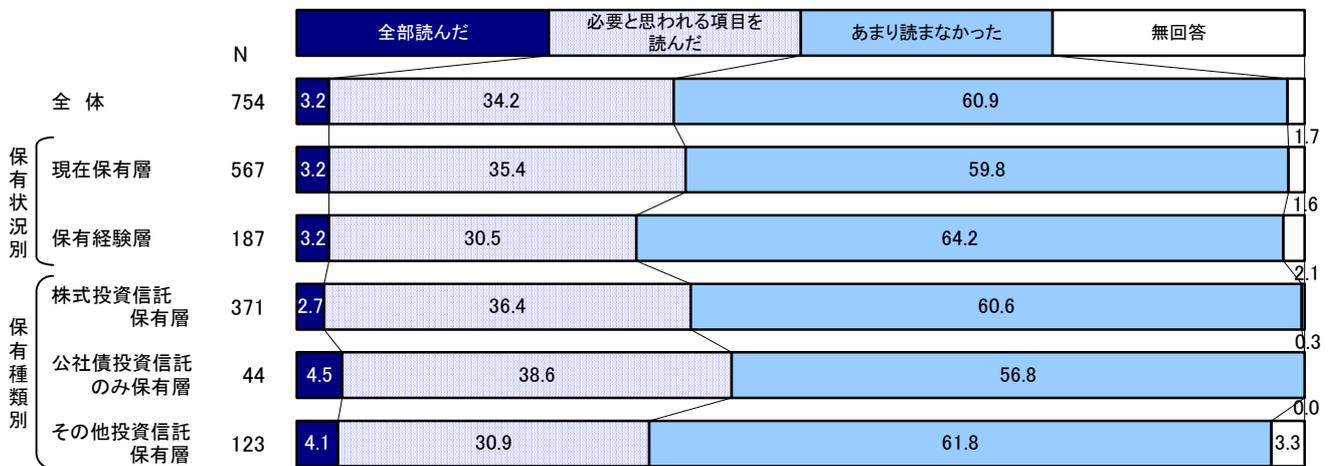


【目論見書閱讀經驗(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有經驗層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【目論見書閱讀經驗(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有經驗層ベース】



② 目論見書の評価(現在保有層・保有経験層のうち目論見書閲読者)

目論見書を「全部読んだ」および「必要と思われる項目を読んだ」人に対し、その評価を尋ねたところ、「内容が多すぎる」が75.2%で最も高い。次いで、「専門用語が多すぎてわかりにくい」(56.0%)、「重要な箇所がわからない」(42.9%)の順となっている。

対象者属性別では、性別でみると、「内容が多すぎる」は男性(78.7%)の方が女性(69.2%)より高いが、「専門用語が多すぎてわかりにくい」は男性(52.2%)より女性(62.5%)の方が高い。

年代別では、「グラフや図がわかりにくい」は70歳以上で60代以下よりやや高い。

年収別では、「専門用語が多すぎてわかりにくい」は「～300万円未満」の層でやや高い。

投資信託保有状況別では、「重要な箇所がわからない」は現在保有層(40.2%)より保有経験層(52.4%)の方がやや高い。

投資信託保有種類別では、「専門用語が多すぎてわかりにくい」は、株式投資信託保有層(54.5%)よりその他投資信託保有層(65.1%)の方がやや高い。

【目論見書の評価(重複回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書読者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	内容が多すぎる	専門用語が多すぎてわかりにくい	重要な箇所がわからない	グラフや図がわかりにくい	読みやすい・わかりやすい	特にない	その他	無回答	
全体	282	75.2	56.0	42.9	13.8	5.3	2.8	1.4	1.8	
性別	男性	178	78.7	52.2	44.4	10.7	3.9	2.2	0.0	2.2
	女性	104	69.2	62.5	40.4	19.2	7.7	3.8	3.8	1.0
年代別	20代	7	57.1	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
	30代	28	71.4	53.6	57.1	10.7	7.1	0.0	0.0	3.6
	40代	41	73.2	68.3	48.8	17.1	0.0	0.0	4.9	2.4
	50代	47	76.6	51.1	42.6	10.6	2.1	4.3	2.1	0.0
	60代	84	72.6	56.0	40.5	9.5	6.0	4.8	0.0	1.2
	70歳以上	75	81.3	56.0	40.0	20.0	9.3	0.0	1.3	2.7
	年収別	100万円未満	38	68.4	57.9	42.1	23.7	7.9	7.9	2.6
～300万円未満		62	79.0	67.7	43.5	12.9	8.1	1.6	1.6	1.6
～500万円未満		78	80.8	55.1	41.0	10.3	5.1	3.8	1.3	0.0
～1000万円未満		80	67.5	53.8	47.5	13.8	2.5	1.3	0.0	5.0
1000万円以上		19	89.5	36.8	31.6	15.8	0.0	0.0	5.3	0.0

【目論見書の評価(重複回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書読者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	内容が多すぎる	専門用語が多すぎてわかりにくい	重要な箇所がわからない	グラフや図がわかりにくい	読みやすい・わかりやすい	特にない	その他	無回答	
全体	282	75.2	56.0	42.9	13.8	5.3	2.8	1.4	1.8	
保有状況別	現在保有層	219	75.3	56.6	40.2	14.2	4.6	2.7	1.4	1.4
	保有経験層	63	74.6	54.0	52.4	12.7	7.9	3.2	1.6	3.2
保有種類別	株式投資信託保有層	145	75.9	54.5	43.4	13.1	3.4	3.4	1.4	2.1
	公社債投資信託のみ保有層	19	57.9	57.9	26.3	21.1	15.8	0.0	0.0	0.0
	その他投資信託保有層	43	76.7	65.1	39.5	14.0	4.7	2.3	0.0	0.0

(11) 運用報告書閲読状況〔問 14、問 14-1、問 14-2〕

① 運用報告書閲読率

決算期に発行される「運用報告書」を「全部読んだ」のは4.0%、「必要と思われる項目を読んだ」は50.7%であり、これらを合わせた“閲読率”は54.7%と過半数を占める。一方、「読んだことがない」人も38.1%みられる。

平成21年の調査結果と比べると、「読んだことがない」比率は4.5ポイント高くなっている。

対象者属性別では、性別で見ると、“閲読率”は男性が64.7%に対し、女性は43.6%と低い。

年代別では、“閲読率”は40代で47.5%と低い。

年収別にみると、“閲読率”は年収が上がるにつれ高くなるが、『300万円以上』では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別では、“閲読率”は現在保有層(56.5%)の方が保有経験層(49.2%)より高い。

投資信託保有種類別では、“閲読率”の差は小さいものの、株式投資信託保有層(58.8%)、その他投資信託保有層(53.7%)、公社債投資信託のみ保有層(47.8%)の順となっている。

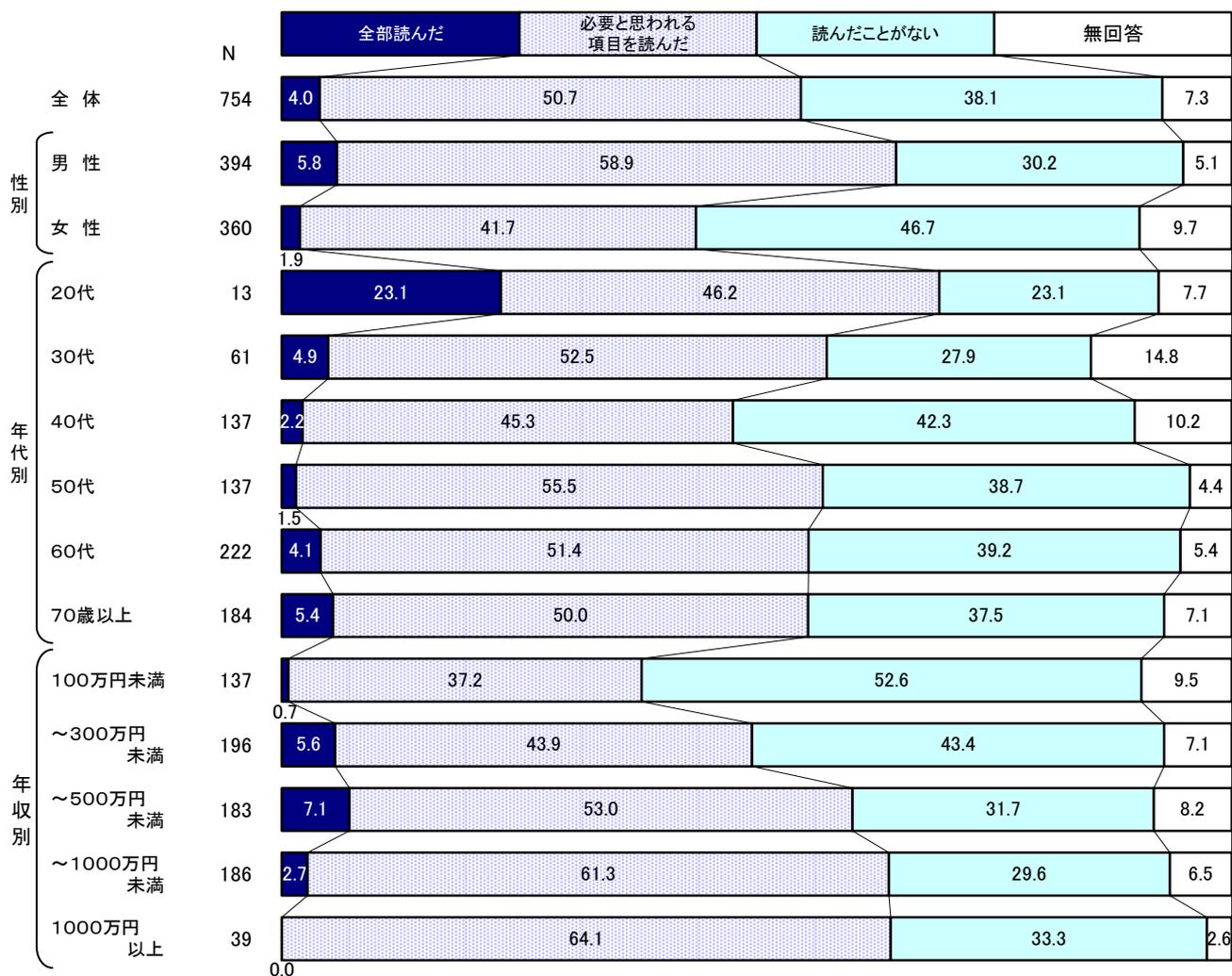
【運用報告書閲読経験(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



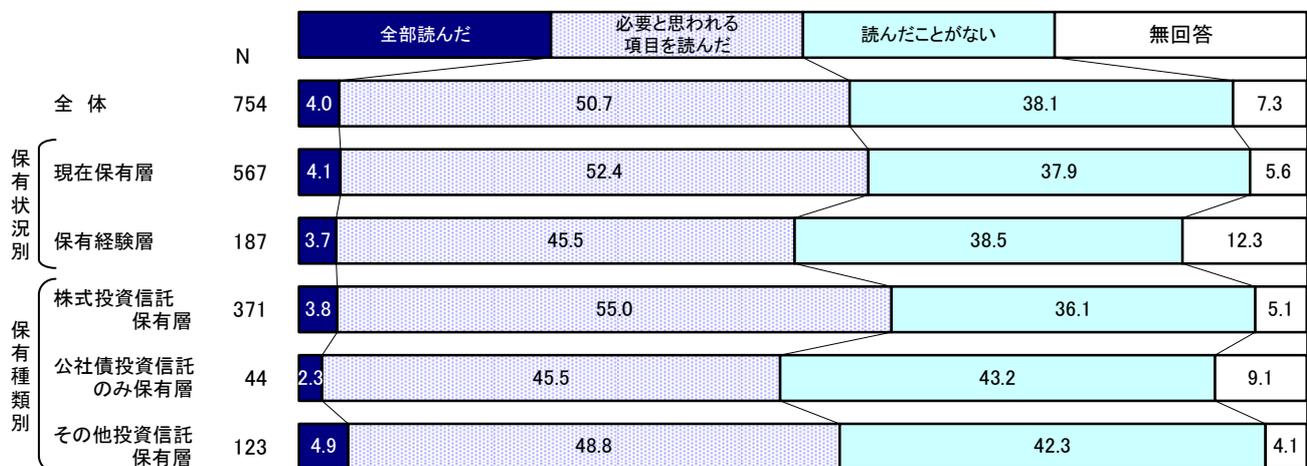
*平成21年調査までの「読んだことがある」を、平成24年調査より「全部読んだ」と「必要と思われる項目を読んだ」の2つの選択肢に分けている。

【運用報告書閲読経験(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【運用報告書閲読経験(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】



② 運用報告書理解状況(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読者)

「運用報告書」を「全部読んだ」または「必要と思われる項目を読んだ」と答えた人に対し、「運用報告書」の理解状況を尋ねたところ、「よく理解できた」のは2.9%のみであり、「まあまあ理解できた」(54.1%)と合わせた“理解層”は57.0%を占める。一方、「よくわからなかった」(40.5%)と「全くわからなかった」(1.7%)を合わせた“非理解層”は42.2%であり、“理解層”が“非理解層”を上回っている。

時系列でみると、“理解層”比率は平成18年から平成21年には5.1ポイント低くなったが、平成21年から今回では7.4ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別でみると、“理解層”比率は男性が64.3%であり、女性(45.2%)より高い。

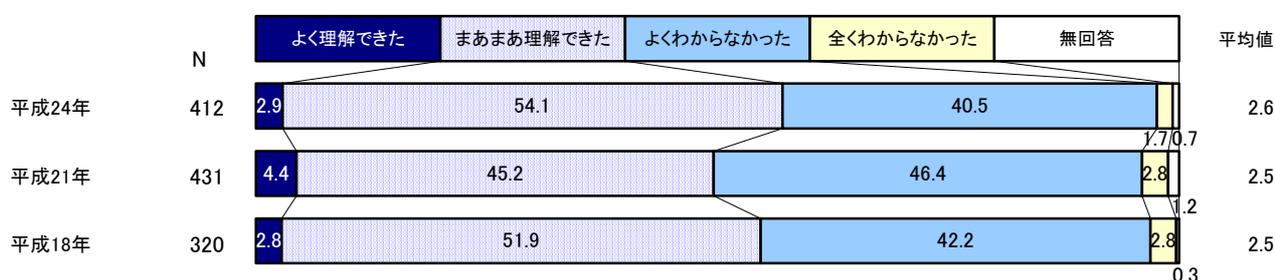
年代別では、大きな差はみられない。

年収別では、“理解層”比率は「100万円未満」の低年収層で42.3%と特に低いが、年収が上がるにつれ高くなり、「300万円」より年収が高い層では60%台で同程度となっている。

投資信託保有状況別および投資信託保有種類別では、大きな差はみられない。

【運用報告書理解状況(単数回答)／時系列

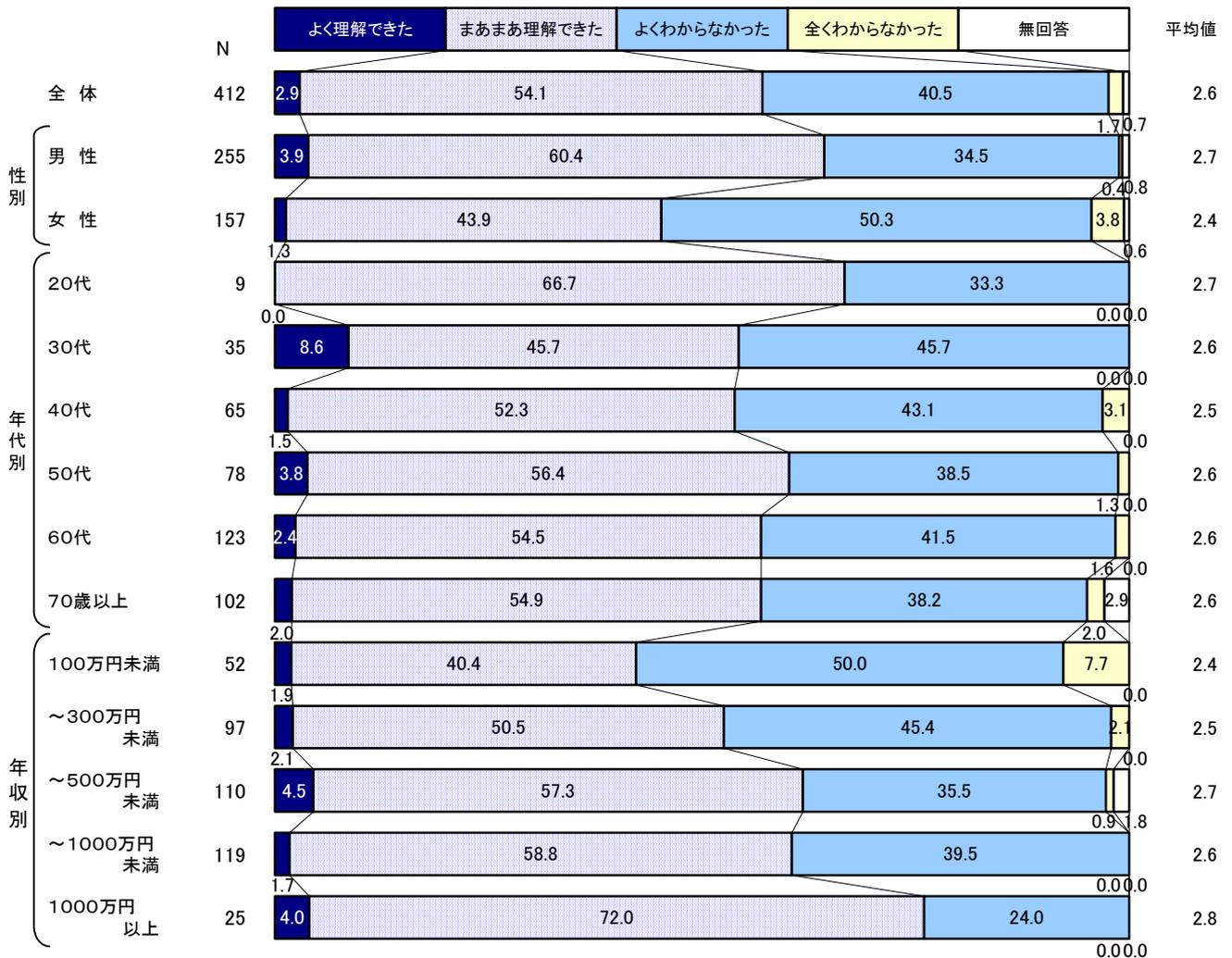
－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読者ベース】



【運用報告書理解状況(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読者ベース

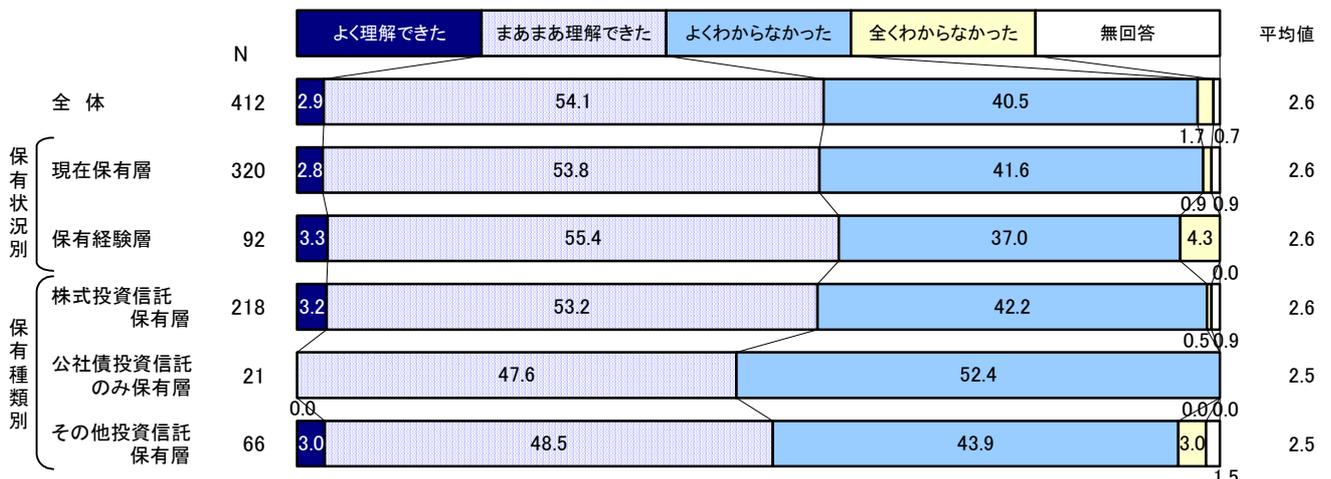
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書理解状況(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③ 運用報告書未読理由(運用報告書閲読未経験者)

「運用報告書」を「読んだことがない」と答えた人に、その理由を尋ねたところ、「内容が多すぎて読む気にならなかった」が55.4%と過半数を占め、特に高い。次いで、「難しそうだったので」が20.9%、「特に興味もなかったのので」が11.8%、「重要な箇所がわからなかった」が9.1%の順となっている。

対象者属性別では、性別で見ると、男性は女性に比べて「特に興味もなかったのので」がやや高いが、「難しそうだったので」は女性の方が高い。

年代別にみると、40代は他の年代層に比べ「難しそうだったので」がやや高いが、「重要な箇所がわからなかったのので」はやや低い。

年収別では、「～500万円未満」の中間層では「内容が多すぎて読む気にならなかった」比率が他の層に比べ高い。

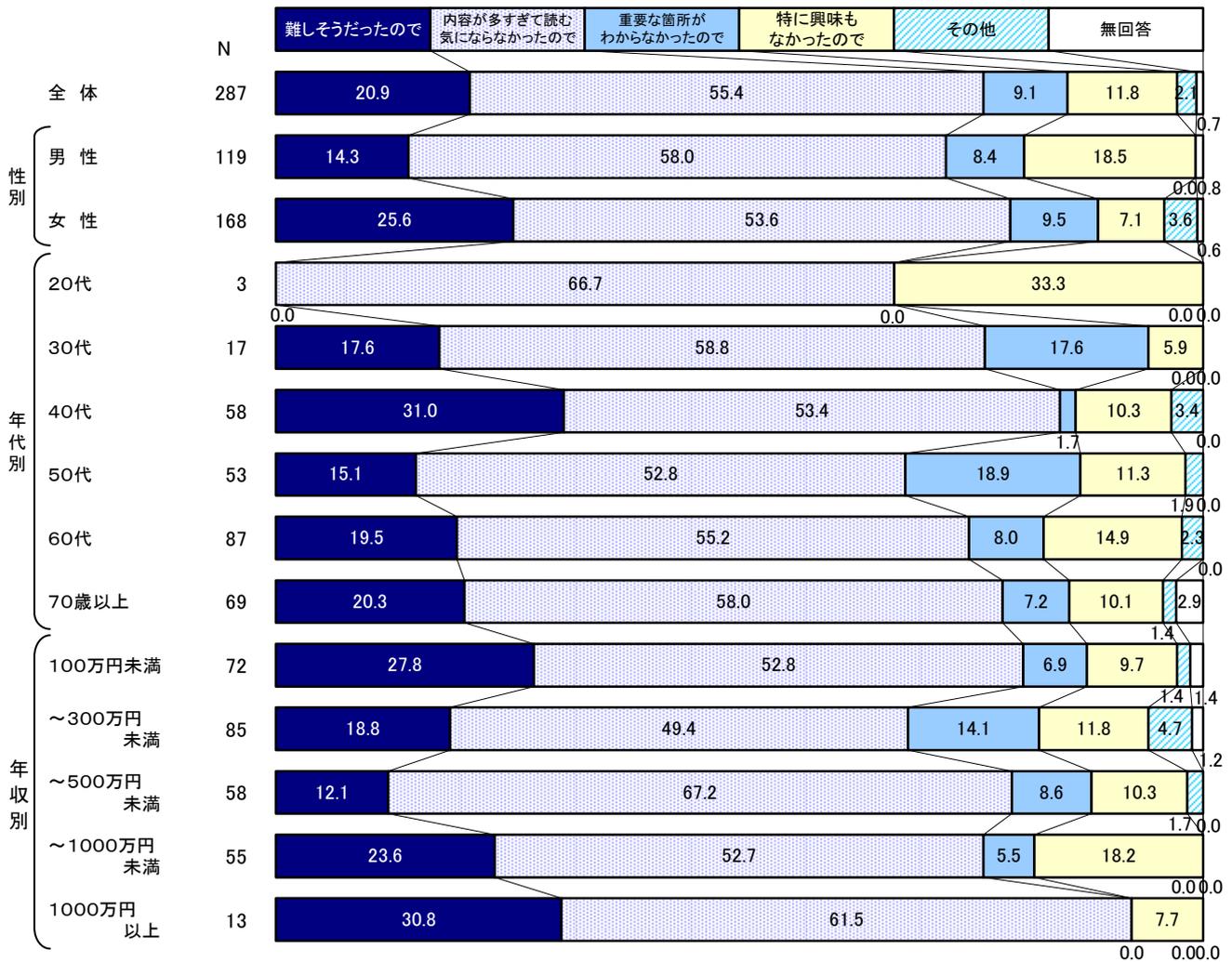
投資信託保有状況別では、現在保有層は保有経験層に比べ「内容が多すぎて読む気にならなかった」が高く、「特に興味もなかったのので」は低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べ「内容が多すぎて読む気にならなかった」がやや高い。

【運用報告書未読理由(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読未経験者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



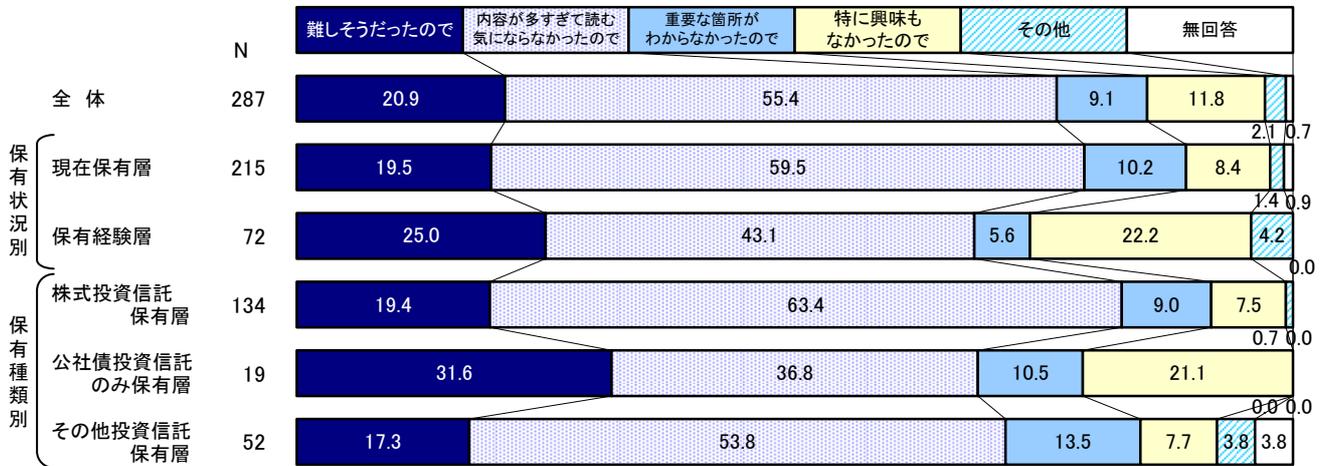
【参考：平成21年、18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	難しそうだったので	特に興味もなかった	発行されていることも知らなかった	無回答
平成21年	221	44.3	45.2	9.5	0.9
平成18年	190	43.2	45.3	11.1	0.5

【運用報告書未読理由(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(12) 評価会社による運用評価の認知・利用状況〔問17〕

評価会社による運用評価については、「評価会社の評価を参考に購入した経験あり」は6.2%のみである。「評価会社の評価を見たことがある」は39.3%であり、これらを合わせた“認知率”は45.5%と半数弱となっている。なお、「評価会社があること自体知らなかった」のは51.1%を占める。

時系列でみると、“認知率”には大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、“認知率”は男性(53.3%)の方が女性(36.9%)より高い。

年代別では、“認知率”は若年層ほど高い傾向がみられ、60代が39.7%で最も低い。

年収別では、年収が高いほど“認知率”が高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別では、“認知率”は現在保有層(44.1%)より保有経験層(49.7%)の方が高い。

投資信託保有種類別では、“認知率”は株式投資信託保有層が47.8%で最も高く、その他投資信託保有層(36.6%)、公社債投資信託のみ保有層(29.6%)の順となっている。

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／時系列

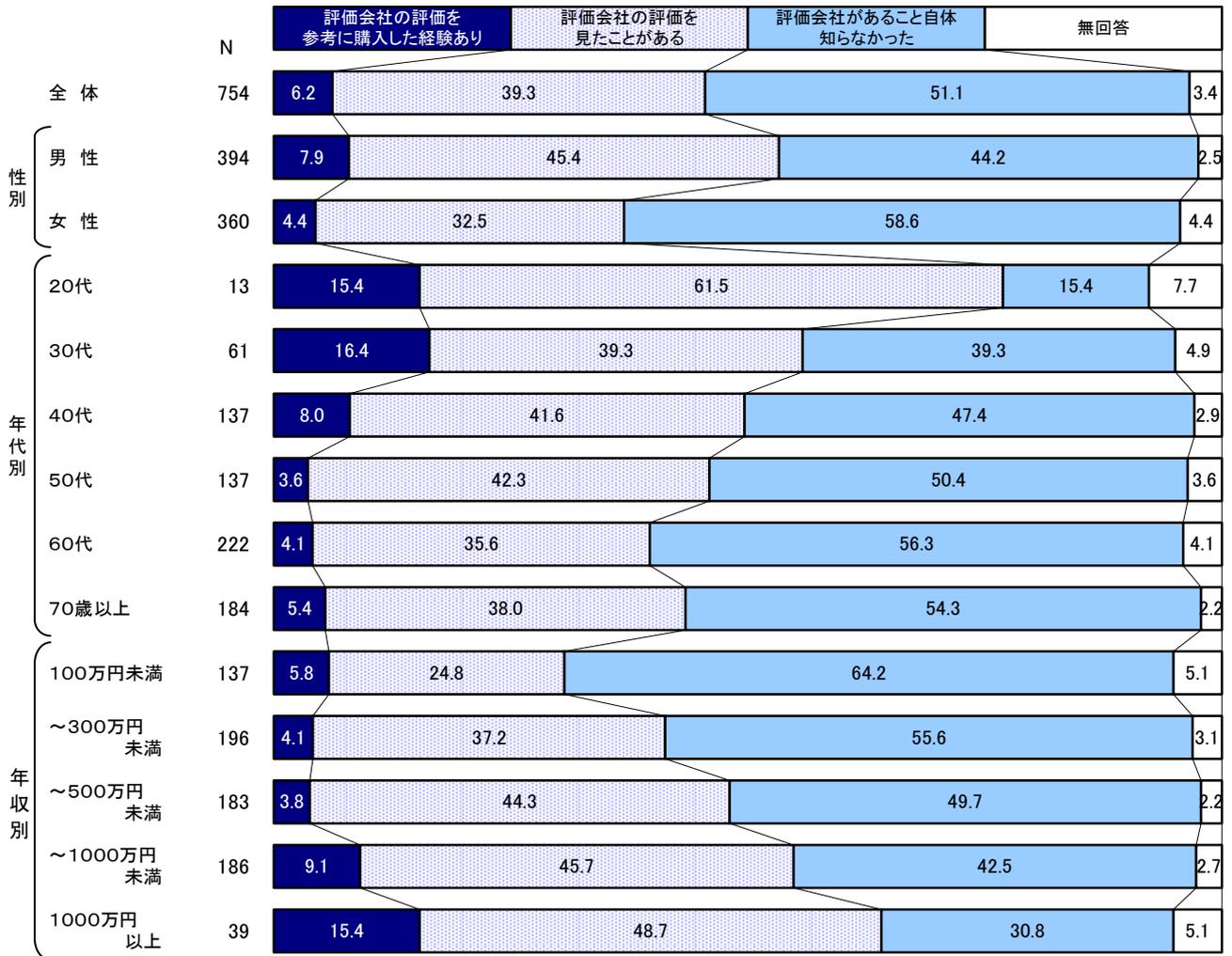
－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	評価会社の評価を 参考に購入した経験あり	評価会社の評価を 見たことがある	評価会社があること自体 知らなかった	無回答
平成24年	754	6.2	39.3	51.1	3.4
平成21年	658	6.2	41.0	49.4	3.3
平成18年	525	6.3	42.5	47.8	3.4

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／基本軸1

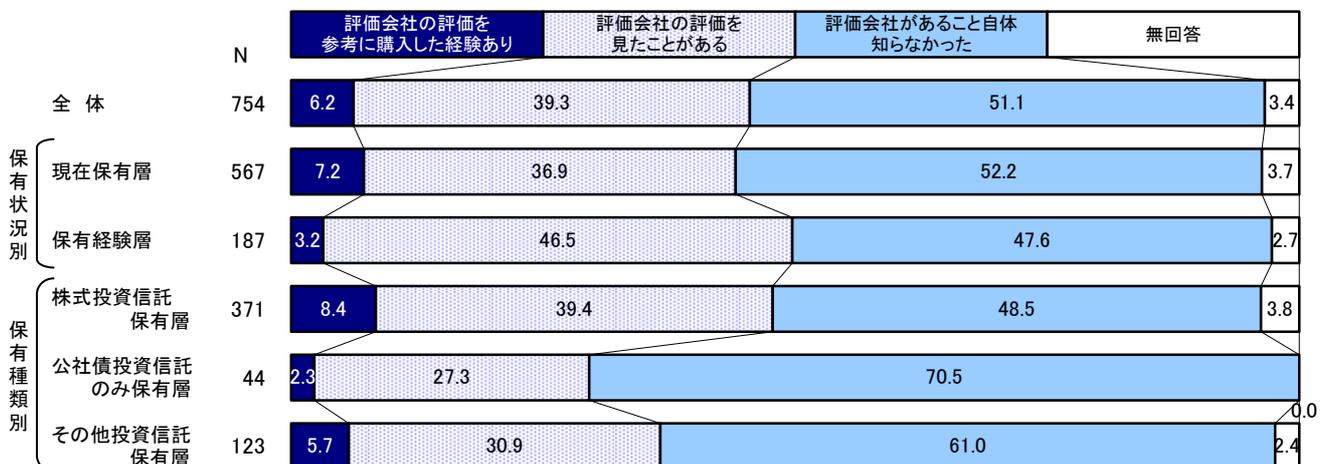
－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース



(13) 投資信託会社のホームページ利用状況〔問 18〕

投資信託などの情報を得るために投資信託会社のホームページを「よく利用する」のは3.3%のみである。「たまに利用する」のは19.6%であり、これらを合わせた“HP利用率”は22.9%に過ぎない。「利用したことがない」が76.1%と大半を占める。

対象者属性別では、性別で見ると、“HP利用率”は男性(32.7%)の方が女性(12.3%)より高い。

年代別では、“HP利用率”は若年層ほど高い傾向がみられ、30代では40%を超えるが、70歳以上では約10%に下がる。

年収別では、年収が上がるにつれ“HP利用率”が高くなる傾向がみられ、『500万円以上』の比較的高年収層では30%を超える。

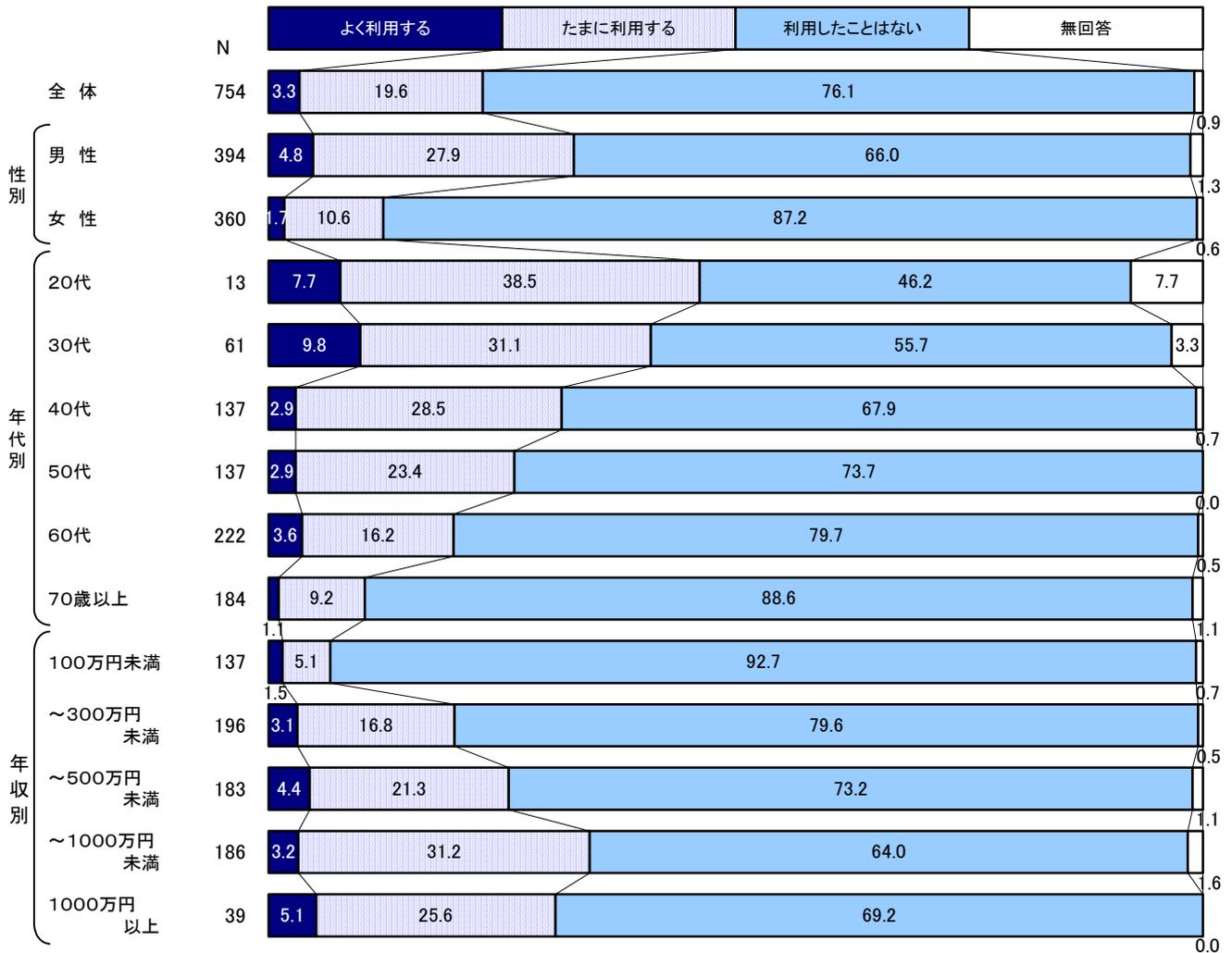
投資信託保有状況別では、“HP利用率”に大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、“HP利用率”は株式投資信託保有層が27.8%で最も高く、その他投資信託保有層(17.0%)、公社債投資信託のみ保有層(9.1%)の順となっている。

【投資信託会社のホームページ利用状況（単数回答）／基本軸1

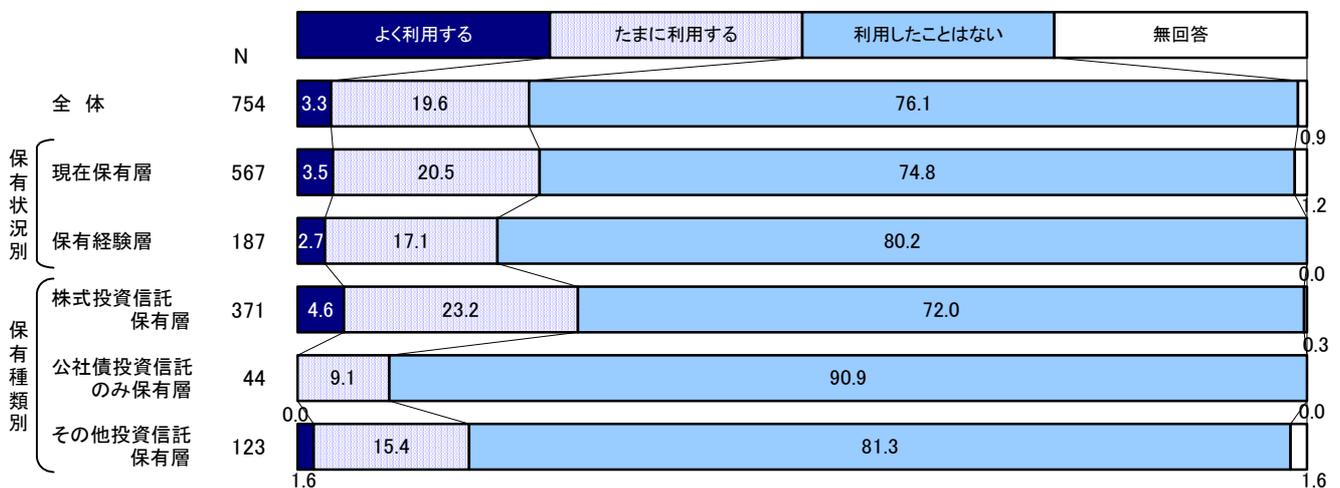
－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託会社のホームページ利用状況（単数回答）／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース】



(14) 投資信託の優れていると感じる点〔問 19①②〕

他の金融商品と比較した場合に投資信託が優れていると感じる点(重複回答)は、「専門知識がなくても投資ができる」(55.4%)、「定期的に分配金が受け取れる」(49.6%)、「比較的高い利回りが期待できる」(42.8%)が上位3位となっている。以下、「少額でも分散投資ができる」(30.6%)、「購入手続きが簡単である」(27.6%)「少額でも株式投資の面白味がある」(26.1%)、「海外投資が手軽にできる」(22.4%)の順に続く。

時系列でみると、「購入手続きが簡単である」と「少額でも株式投資の面白味がある」は減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、女性の方が「定期的に分配金が受け取れる」、「比較的高い利回りが期待できる」が高いが、「少額でも分散投資ができる」、「少額でも株式投資の面白味がある」、「種類が豊富で目的に応じて選べる」、「積み立て投資ができる」、「分配金が自動的に複利に回る商品がある」は男性の方がやや高い。男性の方が投資信託の多様な優位点を認めている傾向がうかがわれる。

年代別では、「定期的に分配金が受け取れる」は50代以上が高い。一方、「少額でも分散投資ができる」は30~40代の方が60代以上より高い。「海外投資が手軽にできる」も30代で比較的高いが、70歳以上では低い。他にも高年齢層より30~40代の方が高めの項目が多く、若年層では多様な点を優位点として評価している様子がうかがえる。

年収別では、「専門知識がなくても投資ができる」は「~500万円以上」の中間層を中心とした山型となっている。「定期的に分配金が受け取れる」は300万円未満の低年収層がそれ以上の年収層より高いのに対し、「少額でも株式投資の面白味がある」は高年収層の方が高い。「1000万円以上」の高年収層では他に「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」が他の層より高い。

投資信託保有状況別では、「定期的に分配金が受け取れる」ことを評価する率は現在保有層(54.1%)が保有経験層(35.8%)を大きく上回っている。「比較的高い利回りが期待できる」も現在保有層の方が保有経験層より高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「少額でも株式投資の面白味がある」を評価する率が高い。その他投資信託保有層は他2層に比べ「定期的に分配金が受け取れる」「海外投資が手軽にできる」を評価する率が高い。公社債投資信託のみ保有層は全般的に評価する率が低い。

投資信託が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「比較的高い利回りが期待できる」と「定期的に分配金が受け取れる」がともに19.1%で並んでいる。これに「専門知識がなくても投資ができる」が17.4%の僅差で続き、この3項目で過半数を占める。

時系列でみると、「定期的に分配金が受け取れる」は平成18年から21年には8.0ポイント高くなったが、21年から今回には5.7ポイント低くなった。一方、「専門知識がなくても投資ができる」は平成18年から21年には6.7ポイント低くなったが、21年から今回にかけては5.1ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別でみると、女性の方が「比較的高い利回りが期待できる」を魅力を感じる率がやや高い。

年代別では、「定期的に分配金が受け取れる」を魅力を感じる率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられるが、「少額でも分散投資ができる」は若年層ほど高い。各年代のトップ項目をみると、30代は「専門知識がなくても投資ができる」、40代と50代は「比較的高い利回りが期待できる」、60代は「定期的に分配金が受け取れる」と「専門知識がなくても投資ができる」が同程度でトップ、70歳以上は「定期的に分配金が受け取れる」が単独トップとなっている。

年収別では、「定期的に分配金が受け取れる」を魅力を感じる率は「300万円未満」の層(24.0%)は、『300万円以上1000万円未満』の層(16%台)よりやや高い。

投資信託保有状況別では、「定期的に分配金が受け取れる」を魅力を感じる率は現在保有層(21.5%)の方が保有経験層(11.8%)より高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「専門知識がなくても投資ができる」を魅力を感じる率が高い。その他投資信託保有層は他の2層に比べ「定期的に分配金が受け取れる」を魅力を感じる率は高いが、「比較的高い利回りが期待できる」は低い。

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	専門知識がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも分散投資ができる	購入手続きが簡単である	少額でも株式投資の面白味がある	海外投資が手軽にできる	種類が豊富で目的に応じたものを選べる	積立投資ができる	分配金が自動的に複利に回る商品がある	その他	よくわからない	無回答
平成24年	754	55.4	49.6	42.8	30.6	27.6	26.1	22.4	19.8	16.3	15.5	1.9	4.6	2.8
平成21年	658	49.5	52.1	45.4	-	31.3	33.6	18.4	21.9	19.5	19.8	0.8	4.6	2.3
平成18年	525	55.2	45.5	42.1	-	33.9	36.6	18.5	22.9	19.8	15.6	0.2	4.4	4.2

*平成24年調査より「少額でも分散投資ができる」の選択肢が追加されている

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

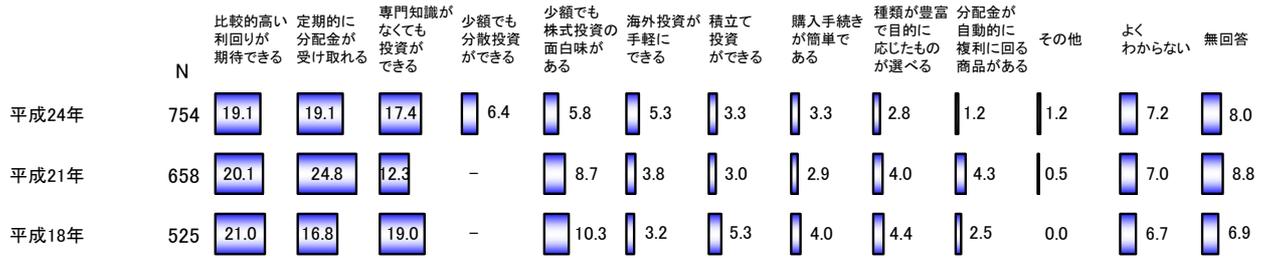
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	専門知識がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも分散投資ができる	購入手続きが簡単である	少額でも株式投資の面白味がある	海外投資が手軽にできる	種類が豊富で目的に応じたものを選べる	積立投資ができる	分配金が自動的に複利に回る商品がある	その他	よくわからない	無回答
全体	754	55.4	49.6	42.8	30.6	27.6	26.1	22.4	19.8	16.3	15.5	1.9	4.6	2.8
性別														
男性	394	57.1	46.2	39.8	35.0	27.9	29.9	24.1	25.4	19.3	18.3	1.3	5.1	2.8
女性	360	53.6	53.3	46.1	25.8	27.2	21.9	20.6	13.6	13.1	12.5	2.5	4.2	2.8
年代別														
20代	13	84.6	30.8	38.5	61.5	15.4	46.2	15.4	30.8	15.4	15.4	0.0	0.0	7.7
30代	61	60.7	41.0	32.8	45.9	23.0	31.1	34.4	21.3	21.3	21.3	0.0	4.9	3.3
40代	137	52.6	38.7	43.8	48.2	29.9	32.1	27.7	24.1	24.1	18.2	0.7	5.8	2.2
50代	137	51.1	55.5	45.3	31.4	25.5	24.8	24.8	24.1	12.4	11.7	1.5	4.4	0.0
60代	222	55.4	50.9	45.5	20.3	26.6	24.3	24.3	15.3	14.0	17.1	2.7	5.0	4.1
70歳以上	184	57.1	56.0	40.8	22.3	31.0	21.7	10.9	17.4	14.7	12.5	2.7	3.8	3.3
年収別														
100万円未満	137	51.8	58.4	41.6	24.1	29.9	19.7	15.3	14.6	11.7	12.4	3.6	5.8	1.5
～300万円未満	196	57.1	55.1	43.4	24.5	34.2	26.0	20.4	15.3	13.3	11.7	1.0	5.6	2.0
～500万円未満	183	60.1	45.4	43.7	33.9	23.0	31.1	21.9	20.2	14.8	16.4	1.1	3.8	4.4
～1000万円未満	186	55.9	44.6	43.5	37.6	26.9	24.2	30.1	24.2	24.7	20.4	2.7	2.7	2.7
1000万円以上	39	43.6	43.6	38.5	38.5	20.5	41.0	25.6	35.9	20.5	17.9	0.0	7.7	0.0

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	専門知識がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも分散投資ができる	購入手続きが簡単である	少額でも株式投資の面白味がある	海外投資が手軽にできる	種類が豊富で目的に応じたものを選べる	積立投資ができる	分配金が自動的に複利に回る商品がある	その他	よくわからない	無回答
全体	754	55.4	49.6	42.8	30.6	27.6	26.1	22.4	19.8	16.3	15.5	1.9	4.6	2.8
保有状況別														
現在保有層	567	55.6	54.1	44.6	29.6	27.2	24.9	24.2	19.9	14.5	15.7	1.2	3.9	2.6
保有経験層	187	55.1	35.8	37.4	33.7	28.9	29.9	17.1	19.3	21.9	15.0	3.7	7.0	3.2
保有種類別														
株式投資信託保有層	371	58.5	53.1	44.7	32.3	28.0	26.7	21.8	20.2	15.4	16.2	1.6	2.7	2.2
公社債投資信託のみ保有層	44	43.2	47.7	38.6	25.0	15.9	18.2	9.1	9.1	11.4	11.4	0.0	13.6	2.3
その他投資信託保有層	123	51.2	61.8	48.0	22.0	27.6	21.1	36.6	19.5	12.2	16.3	0.8	4.1	0.8

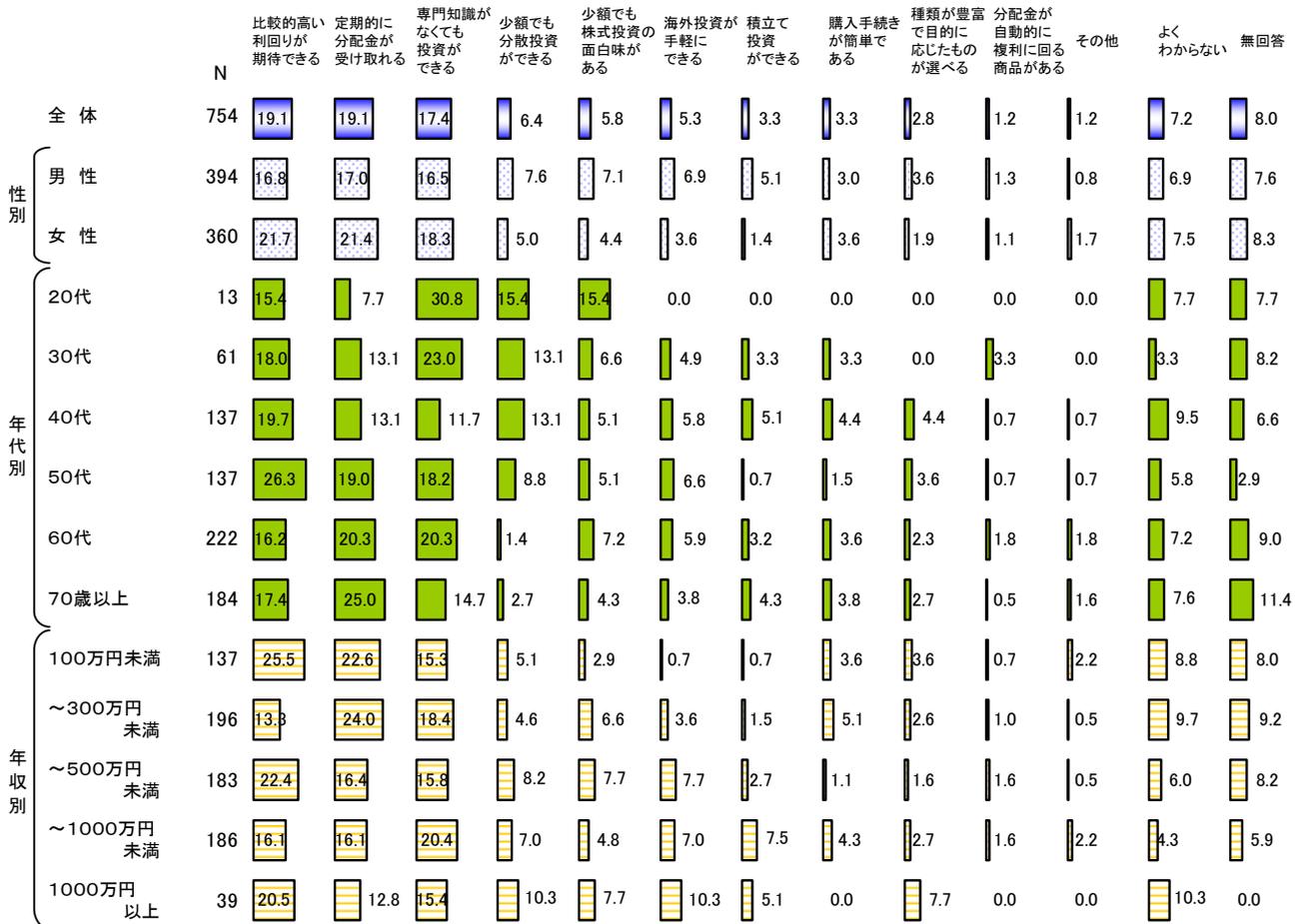
【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】



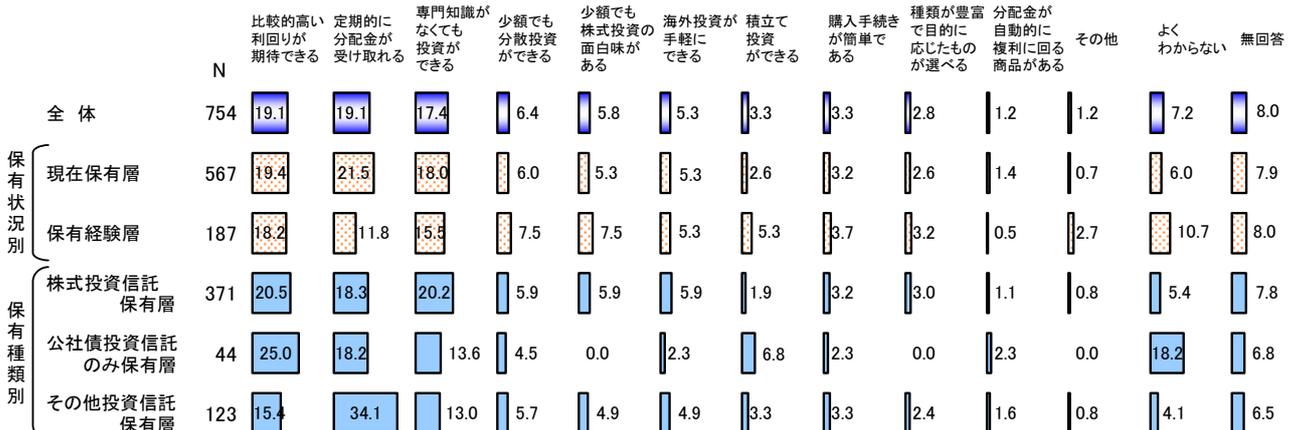
*平成24年調査より「少額でも分散投資ができる」の選択肢が追加されている

【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／基本軸1—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／基本軸2—現在保有層・保有経験層ベース】



(15) 投資信託の不満を感じる点〔問 20①②〕

他の金融商品と比較した場合、投資信託について不満を感じる点(重複回答)は、「元本保証がない」が63.3%で最も高く、他を大きく上回っている。以下、「手数料が高い」(42.3%)、「運用実績がわかりにくい」(34.4%)、「公社債に比べて安心できない」(33.2%)の順に続く。

時系列でみると、「公社債に比べて安心できない」と「利回りがものたりない」は増加傾向がみられるが、「株式に比べて面白さに欠ける」は下降傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、女性の方が「元本保証がない」、「公社債に比べて安心できない」が高いが、男性の方が「株式に比べて面白さに欠ける」、「利回りがものたりない」を不満に思う率が高い。

年代別では、「手数料が高い」は60代以上の高年齢層では低下する傾向がみられるが、「運用実績がわかりにくい」、「公社債に比べて安心できない」、「株式に比べて面白さに欠ける」は年代が上がるにつれ不満が高まる傾向がみられる。「元本保証がない」ことへの不満は、30代で他の年齢層より低い。

年収別にみると、「元本保証がない」や「公社債に比べて安心できない」は年収が低い層ほど不満率が高い。「1000万円以上」の高年収層では「利回りがものたりない」(33.3%)が他層に比べやや高い。「種類が多く選択に迷う」は「～1000万円未満」の層が最も高く、「株式に比べて面白さに欠ける」は『300万円以上～1000万円未満』を中心とする山形の間層でやや高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層は保有経験層に比べ「元本保証がない」の不満率が高いが、「運用実績がわかりにくい」、「購入後の運用に関する情報が少ない」、「株式に比べて面白さに欠ける」を不満に思う率はやや低く、「なんとなくなじめない」率も低い。

投資信託保有種類別では、「手数料が高い」不満率は株式投資信託保有層が最も高く(48.8%)、公社債投資信託のみ保有層(20.5%)が最も低い。株式投資信託保有層は「株式に比べて面白さに欠ける」不満も他2層より高い。

投資信託の不満を感じる点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)としては、「元本保証がない」が36.3%で最も高く、次いで「手数料が高い」が12.9%であり、この2項目で半数を占めている。

時系列でみると、「手数料が高い」は減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、「元本保証がない」不満率は男性(28.2%)より女性(45.3%)の方が高い。

年代別では、「手数料が高い」ことへの不満は50代を中心とした山型となっている。

年収別では、「元本保証がない」不満率は年収が低いほど高い傾向がみられる。「1000万円以上」の高年収層ではこの不満は20%を下回り、「手数料が高い」(28.2%)がトップとなっている。

投資信託保有状況別では、「元本保証がない」不満率は現在保有層(38.8%)の方が保有経験層(28.9%)より高い。

投資信託保有種類別では、公社債投資信託のみ保有層は他2層に比べ「手数料が高い」不満はやや低い。

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	元本保証 がない	手数料が 高い	運用実績 がわかり にくい	公社債に 比べて 安心でき ない	購入後の 運用に 関する 情報が 少ない	利回りが ものたり ない	種類が 多く選択 に迷う	株式に 比べて 面白さに 欠ける	なんと な く な じ め ない	購入手続 きがわ ず ら わ い し い	近くに 証券会 社 銀行等 の 店舗が ない	クローズ ド期間 がある	その他	よく わ か ら ない	無回答
平成24年	754	63.3	42.3	34.4	33.2	22.9	22.7	22.7	18.8	8.6	7.7	4.4	3.4	2.8	3.1	2.8
平成21年	658	64.4	38.3	33.1	31.3	21.4	17.9	22.8	19.9	7.9	6.4	5.6	5.9	2.1	3.6	1.7
平成18年	525	56.2	40.6	31.4	26.7	21.9	17.5	26.1	25.7	6.5	6.1	7.2	7.0	1.7	5.7	3.8

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

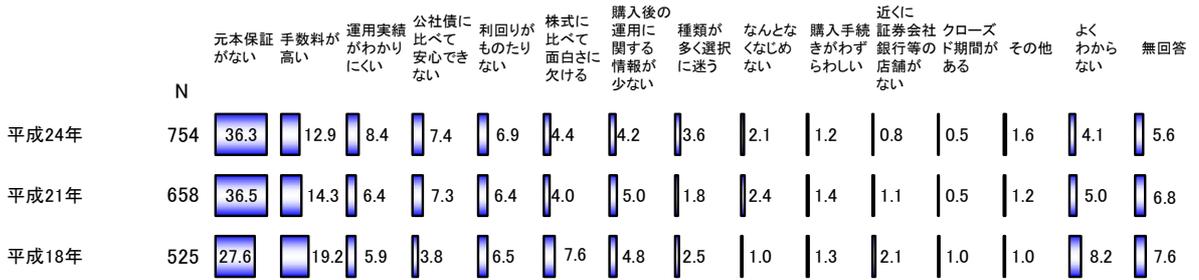
	N	元本保証 がない	手数料が 高い	運用実績 がわかり にくい	公社債に 比べて 安心でき ない	購入後の 運用に 関する 情報が 少ない	利回りが ものたり ない	種類が 多く選択 に迷う	株式に 比べて 面白さに 欠ける	なんと な く な じ め ない	購入手続 きがわ ず ら わ い し い	近くに 証券会 社 銀行等 の 店舗が ない	クローズ ド期間 がある	その他	よく わ か ら ない	無回答	
全体	754	63.3	42.3	34.4	33.2	22.9	22.7	22.7	18.8	8.6	7.7	4.4	3.4	2.8	3.1	2.8	
性別	男性	394	57.6	42.6	35.8	29.7	24.4	25.9	24.6	25.6	7.6	7.1	4.3	3.8	2.8	2.8	3.3
	女性	360	69.4	41.9	32.8	36.9	21.4	19.2	20.6	11.4	9.7	8.3	4.4	3.1	2.8	3.3	2.2
年代別	20代	13	46.2	38.5	7.7	23.1	23.1	23.1	30.8	7.7	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	30代	61	44.3	49.2	23.0	16.4	21.3	26.2	23.0	18.0	8.2	4.9	0.0	4.9	0.0	3.3	3.3
	40代	137	64.2	46.0	29.9	21.9	21.9	20.4	23.4	13.1	9.5	12.4	6.6	4.4	3.6	5.8	1.5
	50代	137	62.8	49.6	38.7	33.6	24.1	25.5	24.1	10.9	7.3	10.9	5.8	4.4	2.2	2.2	0.0
	60代	222	67.6	41.4	35.1	39.6	22.1	23.9	21.2	21.2	8.6	5.0	4.1	3.6	3.2	3.6	3.2
	70歳以上	184	65.2	33.2	39.1	39.7	24.5	19.6	22.3	27.2	9.2	4.9	3.8	1.6	3.3	1.1	4.9
	年收別	100万円未満	137	67.9	40.9	28.5	44.5	20.4	23.4	19.7	12.4	8.0	10.2	5.8	5.8	2.2	4.4
～300万円未満	196	64.8	42.3	35.2	35.7	21.4	17.9	19.4	14.3	7.7	7.1	3.6	3.1	2.6	5.1	2.6	
～500万円未満	183	63.9	39.3	36.6	31.1	26.8	25.1	21.9	25.7	9.3	6.6	5.5	1.6	4.4	2.2	3.8	
～1000万円未満	186	60.2	44.1	37.1	29.6	24.2	22.0	30.1	22.6	9.7	7.0	3.8	4.3	1.6	0.5	3.2	
1000万円以上	39	51.3	43.6	30.8	15.4	17.9	33.3	20.5	17.9	7.7	7.7	2.6	2.6	5.1	5.1	0.0	

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	元本保証 がない	手数料が 高い	運用実績 がわかり にくい	公社債に 比べて 安心でき ない	購入後の 運用に 関する 情報が 少ない	利回りが ものたり ない	種類が 多く選択 に迷う	株式に 比べて 面白さに 欠ける	なんと な く な じ め ない	購入手続 きがわ ず ら わ い し い	近くに 証券会 社 銀行等 の 店舗が ない	クローズ ド期間 がある	その他	よく わ か ら ない	無回答	
全体	754	63.3	42.3	34.4	33.2	22.9	22.7	22.7	18.8	8.6	7.7	4.4	3.4	2.8	3.1	2.8	
保有状況別	現在保有層	567	66.0	43.4	32.5	32.6	21.3	21.3	23.3	15.5	5.8	7.8	3.7	2.8	2.6	3.0	2.5
	保有経験層	187	55.1	39.0	40.1	34.8	27.8	26.7	20.9	28.9	17.1	7.5	6.4	5.3	3.2	3.2	3.7
保有種類別	株式投資信託保有層	371	67.7	48.8	32.3	33.7	21.8	23.2	24.0	18.6	5.9	8.4	2.4	3.0	2.4	1.3	1.6
	公社債投資信託のみ保有層	44	59.1	20.5	29.5	29.5	15.9	22.7	25.0	6.8	11.4	4.5	6.8	2.3	2.3	9.1	2.3
	その他投資信託保有層	123	64.2	38.2	32.5	32.5	19.5	13.8	21.1	7.3	4.9	7.3	6.5	2.4	3.3	6.5	1.6

【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／時系列—現在保有層・保有経験層ベース】

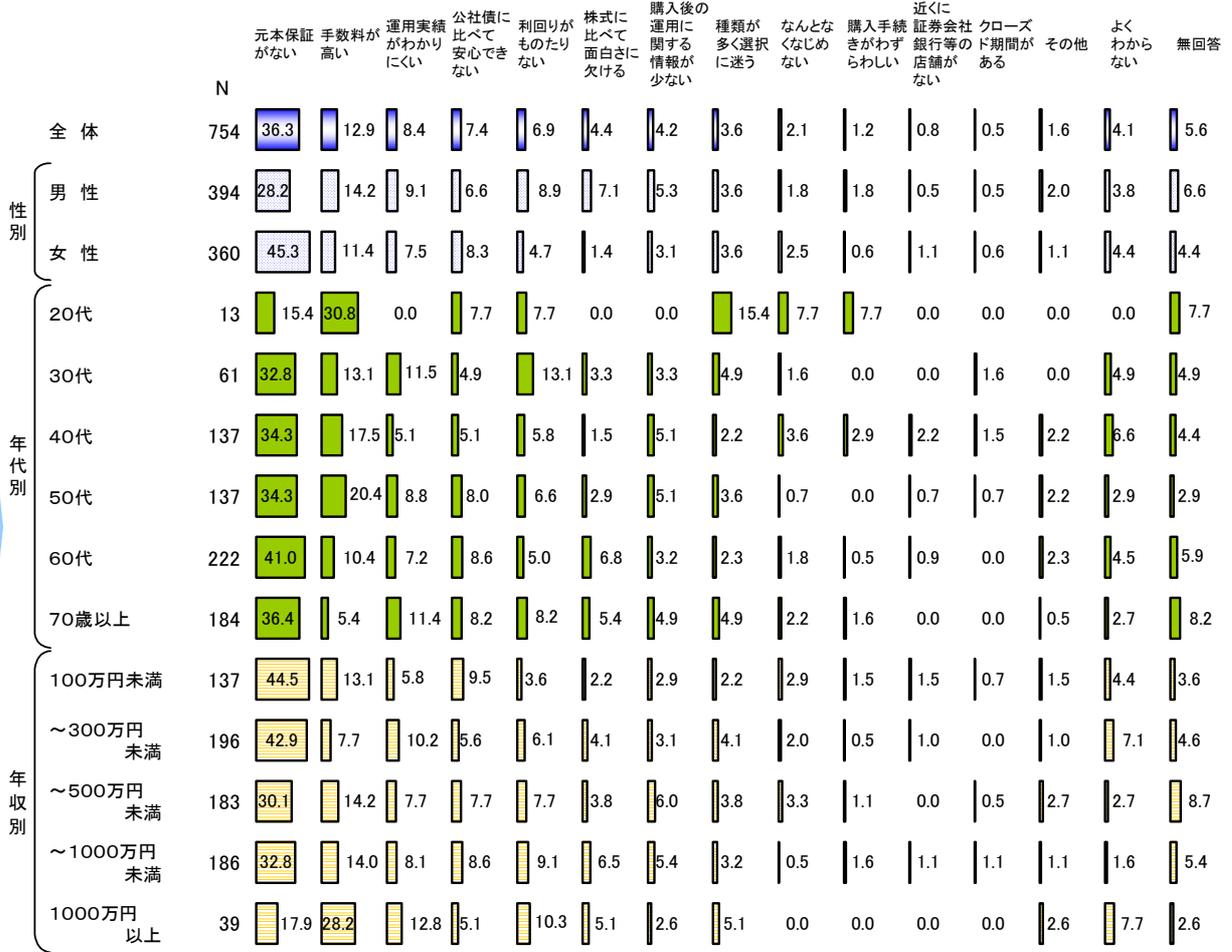
1つだけ



【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／基本軸1—現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

1つだけ



【投資信託の特に不満を感じる点(単数回答)／基本軸2—現在保有層・保有経験層ベース】

1つだけ

